1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	人吉城跡	都道府県	熊本県	市町村	人吉市
文化財種別	国史跡	指定年月日	昭和36年9月2日 （平成15年8月27日追加指定）	指定面積	21,612,212㎡
その他の指定		その他の法規制	人吉市都市公園条例		
保存活用計画	☐ 有 ☑ 無	整備基本計画	☑ 有 ☐ 無	令和2年3月31日策定	
調査担当部署	人吉市教育委員会文化課文化財係	整備担当部署	人吉市教育委員会文化課文化財係		
管理担当部署	人吉市復興建設部都市計画課計画公園係	指定管理者			
委員会設置状況	人吉市指定文化財等保存活用専門会議（H21～）	その他計画			

城郭等の概要	人吉城は、中世から近世まで相良氏の領域支配の拠点としてあり続けた居城で、中世城郭から近世城郭への移り変わりを知ることができる城郭である。また、近世城郭は中世城郭の構造を踏襲する形で整備されている。慶長6年には御本丸・二の丸・堀・櫓御門まで完成し、慶長12年からは外曲輪の石垣普請が開始され、およそ50年をかけて総曲輪の石垣普請が完了した。近世城郭の東南側には中世城郭部分が残り、シラス台地に造られた堀切等の遺構が良好に保存されている。明治維新後の廃城まで、地震や洪水によって度々破損する度に幕府に修理のための願いを提出している。また、史跡内には、人吉城のガイダンス施設として「人吉城歴史館」が立地している。

石垣の面積	13,590 ㎡	石垣の総延長	22.65 ㎞

石垣の特徴	近隣地から産出したデイサイトを使用し、中世城郭の一部を改修し、総石垣の近世城郭を築城した。16世紀後半に石垣普請を開始し、文禄の役で中断されるものの、その後普請・作事は断続的に進められ、17世紀中頃には石垣普請が完了したとされる。野面石乱積が主な積み方で、隅角には算木積みも用いられている。また、文久2年（1862）に発生した大火により、城内の主要な施設が焼失し、その後御館北側の石垣を４m高め、最上段に直方体の切石を並べた「はね出し」石垣を構築している。
近代以降の動向	明治維新後、人吉城は明治2年（1869）から御館半分が藩庁として使用されるが、明治４年（1871）の廃藩置県によって不要となり、明治５年～８年（1872～1875）にかけて城内の櫓・門・蔵等の建物は立木とともに払い下げられ、城郭は石垣のみを残す形となる。明治10年（1877）の西南戦争では、人吉城が西郷軍の陣地となり、近世城三の丸付近には、球磨川北岸の政府軍を砲撃するための大砲が設置されたと伝えられる。
維持管理の概要	・保存管理計画書を、平成23年３月31日に策定している。 ・人吉城址公園の維持管理は、市復興建設部都市計画課計画公園係のもと、委託業者が主体と実施している。石垣面の除草や清掃は年5回ほど市都市計画課及び、文化課から委託を受けた業者が実施している。なお、除草や清掃の範囲については、両課で重複しないよう調整している。その他、石垣に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採に関しては、生育場所等の状況により市が都度業務委託を行っている。 ・地震や水害等の突発的な災害が発生した場合は、市担当者が直接、現地確認を行って被害の有無を確認している。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



「はね出し」石垣↑



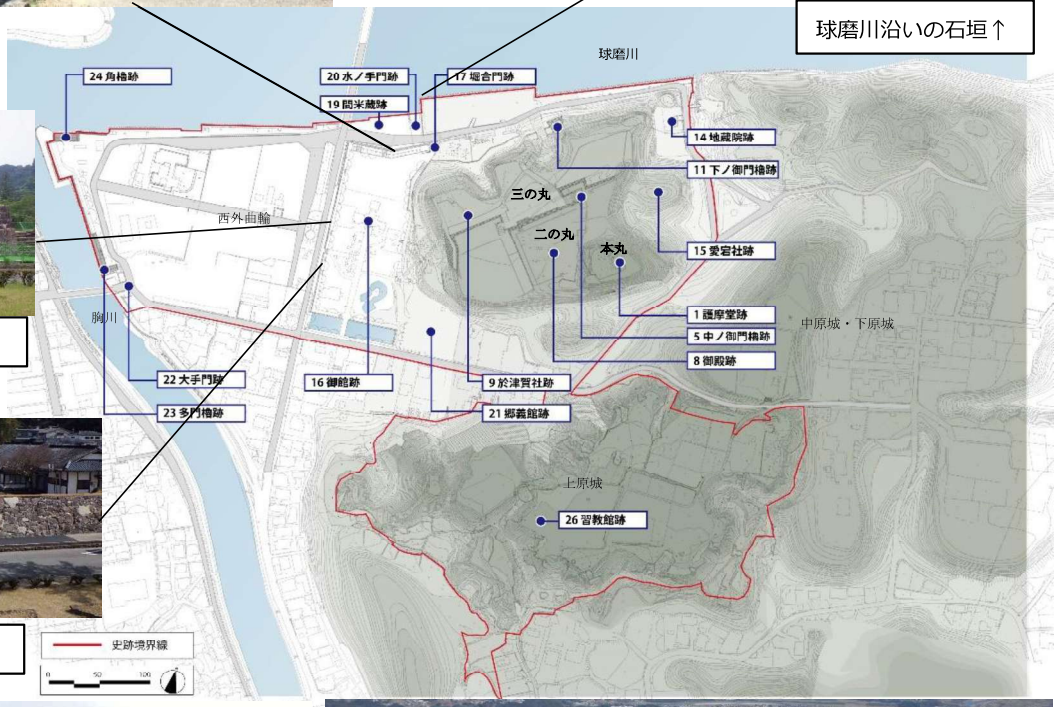
球磨川沿いの石垣↑



御館跡西側石垣北面（修理後）↑

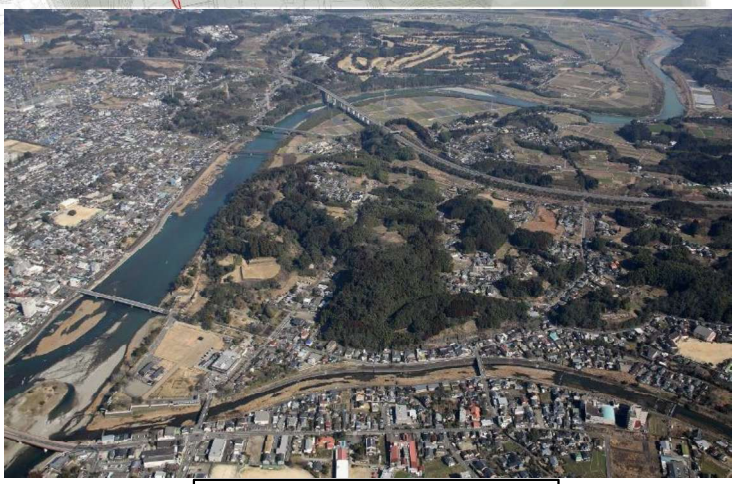


御館跡西側石垣南面（修理後）↑





人吉城跡近景（北西から）↑



人吉城跡全景（西から）↑

参考文献

人吉市教育委員会　2008　『史跡　人吉城跡　史跡人吉城跡保存修理事業・史跡等総合整備活用推進事業の報告』人吉市文化財調査報告書　第26集

人吉市・人吉市教育委員会　2011　『史跡人吉城跡　保存管理計画書　第2版』

人吉市・人吉市教育委員会　2020　『史跡人吉城跡　整備基本計画　第2版』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他 [　平面の位置情報は把握済み
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約10%）　☐未作成 その他 [　]
作成担当部署	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☑ 調査部署 その他 [　]
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他 [　]
作成年 / 更新年	初回：[　　] 年　最終更新： [　　] 年
管理方法	☐ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他 [　]
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他 [　]
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他 [　]

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐一部実施済　☐実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[人員不足のため　]
実施方法	☐自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他 [　]
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☑ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☐ 未実施（既存の表面排水含む） その他 [　]
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容 [　] その他 [　]

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑一部取得済（5%）　☐未取得（計画中）　☐ 予定なし その他 [　]
主な計測手法（複数回答可）	☐ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐航空レーザー測量　☑スマホ・タブレット（LiDAR等） その他 [　]
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☐ 調査・研究　☑ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他 [　]

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

石垣カルテ（表）

石垣番号	B409	地区	B
石垣部位		方位	北東
立地面	平坦面 斜面（　　度）	地盤	岩盤・地山・盛土 胴木・不明

位置図



延長		高さ		
天端	裾基部	左	中央	右
10.6 m	19.2 m	-	7.00 m	8.00 m

隅角部	平面形状	立面形状 勾配	立面形状 反り	石材加工技法	石材構成		石材寸法	石材形状・規格性
左	すり付け	60 度	無	野面石・割石・切石	算木積み（無・角石・角脇石）間詰め石（量[　]・加工技法[　]）・縦石積め	角詰石（　個）・やせ角	m×　m	
右	出角	65 度	有 （天端から -0.6 m）	野面石・割石・切石	算木積み（無・角石・角脇石）間詰め石（量[　]・加工技法[　]）・縦石積め	角詰石（　個）・やせ角	m×　m	

加工痕跡等（表面加工・刻印・転用石・建物跡等）	石質（岩石の種類・特徴・産地等）

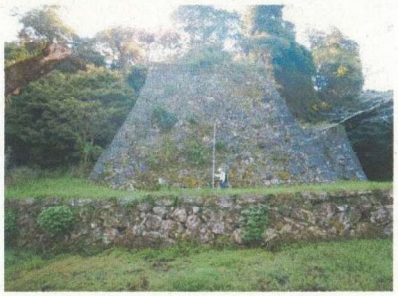
築石（平石）部	平面形状	立面形状 勾配	立面形状 反り	立面形状 気負い	石材加工技法	石積み技法	石材構成	石材寸法	石材形状・規格性
	直線	80 度	無	無・有	野面石・割り石・切石	乱積み・布崩し積み・布積み・谷積み	間詰め石（量[　]・加工技法[　]）・鏡積	m×　m	

加工痕跡等（表面加工・刻印・転用石・建物跡等）	石質（岩石の種類・特徴・産地等）

破損状況		緩み	孕み	割れ	抜け落ち	崩れ	樹木	天端の沈下	その他	変形の計測	無・有	危険性		
隅角部	天端									観測年・状況		崩落等の可能性		
	中部											周辺の利用形態等から見た危険性		
	裾基部													
築石（平石）部	天端									2024年		危険度	1次	
	中部						○							
	裾基部												最終	

古絵図・古文書等	
既往の発掘調査・研究等	
上部構造物	
築造時期	改修時期
分類	編年

見取り図・写真



調査年月日		調査者	

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端･法面･根石付近)	☐ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［　一部伐採・除去を実施
植栽管理の実績･内容等(直近5年以内)	
植栽管理における課題(自由記述)	

9.日常点検･実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☐ 間詰石の抜け落ち　☑ 地形の変状（ひび、沈下等） ☐ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☑ 年数回の定期　☑ 災害後のみ　☐ 随時
点検の主体	☑ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	
日常点検における課題(自由記述)	

10. 石垣修理履歴･記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☑ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☑ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴･記録の活用状況	☑ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

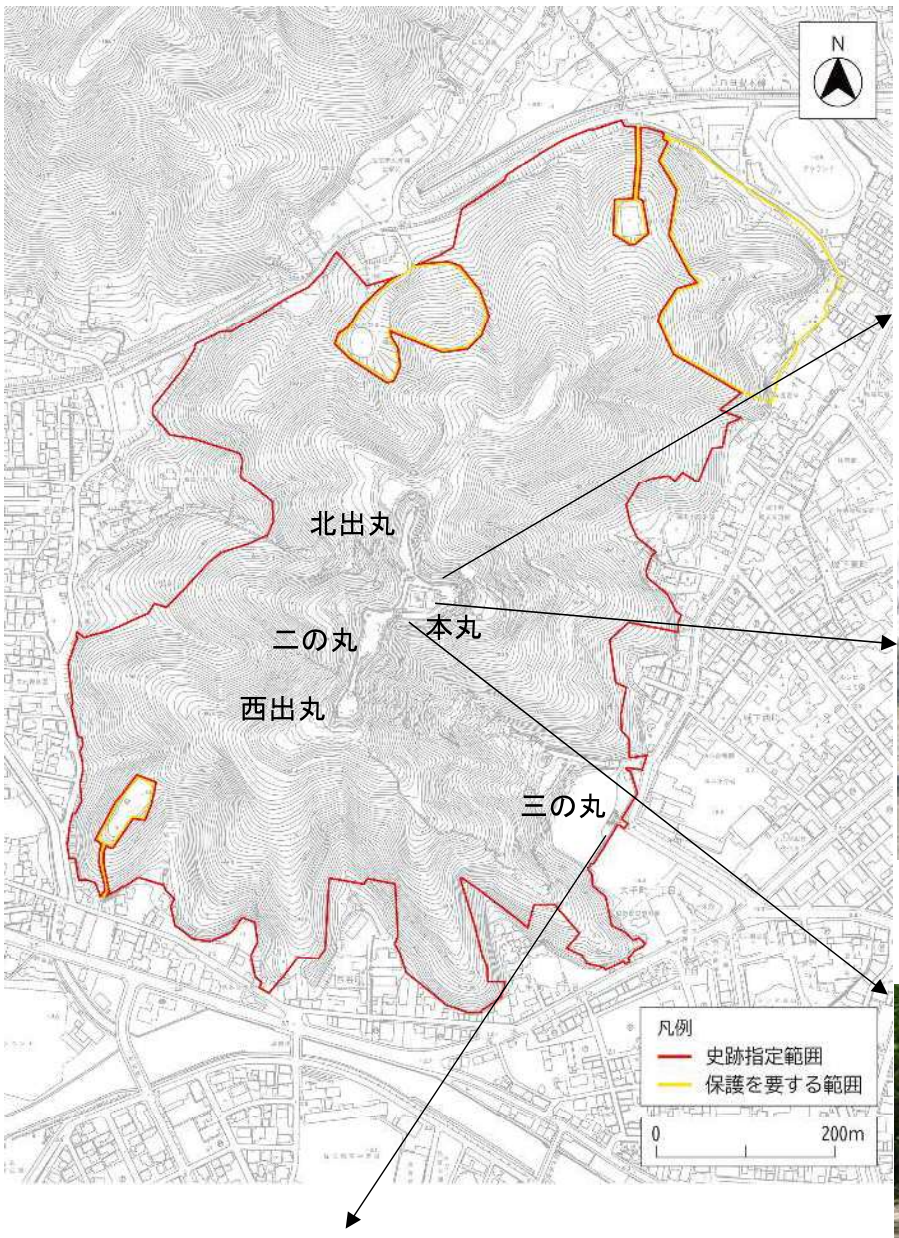
名称(遺跡名)	佐伯城跡	都道府県	大分県	市町村	佐伯市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	令和5年3月20日	指定面積	431,077.87㎡
その他の指定	佐伯城三ノ丸櫓門（県指定有形文化財） オオイタサンショウウオ標準産地（雄池・雌池 県指定天然記念物）	その他の法規制	都市公園法・佐伯市公園条例（城山歴史公園） 景観法・佐伯市景観計画（景観形成重点地区）		
保存活用計画	☑有 ☐無 令和８年３月策定	整備基本計画	☐有 ☑無		
調査担当部署	佐伯市教育委員会社会教育課	整備担当部署	佐伯市建設部建設保全課 佐伯市教育委員会社会教育課		
管理担当部署	佐伯市建設部建設保全課	指定管理者			
委員会設置状況		その他計画			

城郭等の概要	佐伯城跡は、慶長６年（1601）に初代佐伯藩主として入部した毛利高政が築いたとされる城郭である。豊後水道を望む標高144mの八幡山（現・城山）の山頂を造成し、本丸・本丸外曲輪・二の丸・西出丸・北出丸を配置した。南東麓には三の丸を置き、山頂の曲輪群と城道で連結している。山頂の曲輪の周囲には、尾根を平坦に造成した捨曲輪がある。三の丸は、寛永14年（1637）に正面虎口に櫓門を備え、この頃に曲輪を拡張、御殿等を建造したと見られ、以降藩政の拠点となった。捨曲輪を除く曲輪はいずれも総石垣で築かれ、近世を通して大きく形状を変えずに維持補修が繰り返された。このほか、山頂付近の谷の岩盤を掘削して雨水排水の調整機能を持つ雄池と雌池を造り、護岸や土留めに石垣を持ちている。また、享保19年（1734）の風雨で崩落した本丸外曲輪北斜面の復旧のため、河川港湾の設計を組み合わせた大規模擁壁である雛壇状石垣を築いている。

石垣の面積	4643 ㎡	石垣の総延長	1573 ㎞

石垣の特徴	佐伯城跡の石垣の大半は、硬砂岩で構成されている。石材の加工度は高くなく、野面石や、野面石を粗割りしたものが多い。築石の積み替え跡の観察や絵図・文献史料との対照などから、近世初頭から現代にいたるまでの石垣が混在していることは判明しているが、分類や編年には着手できておらず、今後の課題である。
近代以降の動向	明治維新後の佐伯城は廃城とされ、三の丸を除いて建築物は解体・撤去され、土地は国有となった。三の丸は旧藩主家である毛利家が所有し、御殿が県庁舎などに利用されたが、徐々に解体は進んでいった。明治34年（1901）には城山の土地も毛利家に払い下げられた。利用を継続していた三の丸以外は、特に管理はなされていないものの出入りは自由だったらしく、明治26年（1893）、佐伯に教師として赴任していた国木田独歩が、後の著作で鬱蒼とした自然と城跡の情景を活写している。大正期には山頂までの登山道を開削し、公園として親しまれた。昭和４年（1929）には山頂に藩主を祀る毛利神社が創建され、山頂曲輪群の土地は同神社へ寄付されたが、神社は太平洋戦争末期の空襲により大破した。本丸の二重櫓跡が階段に改変されたのは、この頃であろう。昭和45年（1970）には、文化会館建設のため、集会所として利用されていた三の丸御殿が旧城下町の船頭町へと移築され、佐伯城の建築物は三の丸櫓門が残るのみとなった。昭和50年代には城山の土地が佐伯市に寄付され、都市公園「城山歴史公園」としての共用を開始した。令和5年（2023）には三の丸の土地も佐伯市が購入した。
維持管理の概要	佐伯城跡は、三の丸を除く指定範囲の大半が都市公園となっており、佐伯市建設部建設保全課が所管する公園の一つとして維持管理を行っている。三の丸は、以前に佐伯文化会館用地として利用されていた経緯から、佐伯市教育委員会社会教育課が維持管理を行っている。 主な維持管理業務は倒木処理や園路の維持補修で、台風や豪雨、地震等が発生した後に巡視を行っている。また、山頂部の石垣保護と景観改善を目的とした樹木の剪定を毎年行う。このほか、２回/年の石垣清掃ボランティアにより、石垣や曲輪内部の除草・清掃を実施している。 近年の極端な気象により、倒木や斜面崩壊の高頻度化や大規模化が懸念される。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





本丸外曲輪北斜面の雛壇状石垣
（享保20年構築の斜面保護石垣）



本丸二重櫓跡
（昭和期に石垣を階段に改修）



二の丸から見た本丸石垣
（石垣の周囲に樹木多数）



三の丸石垣と櫓門

参考文献	佐伯市教育委員会　2022　『佐伯城跡総合調査報告書』　佐伯市文化財調査報告書第12集 佐伯市教育委員会　2026　『史跡佐伯城跡保存活用計画』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約5%）　☑未作成 その他［石垣カルテ作成時に立面合成写真を作成済み。ただしオルソほどの精度は無い。］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☑ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☑ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[2016] 年　最終更新：［　］年
管理方法	☑ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［FileMaker　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☑ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	予備診断そのものというよりは、予備を含めた各種診断結果に応じて、相応の対応が継続的に必要となる可能性があることに対して、体制・費用の確保と自治体内の事前了解が課題であると考える。

5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☑ 公園施設の既存側溝　☐遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

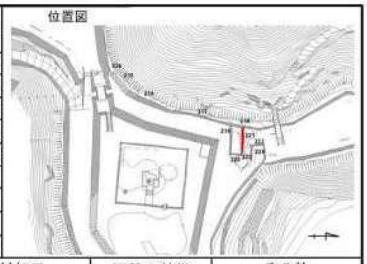
3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑一部取得済（3%）　☐未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☐ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☐経年変化の差分解析等 ☑ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

佐伯城跡石垣調査票

石垣番号	221	地区	本丸外曲輪

位置図



長さ	天部	6.64	m
	基底部	7.18	m
高さ	左	1.85	m
	中央	2.08	m
	右	2.46	m
勾配	左	78.9	°
	中央	75.4	°
	右	71.5	°
立面積		15.1	㎡

		平面形状	反り	石材加工	石積の特徴	その他
隅角部	左	鏑出角 (出角) 入角 鏑入角	有 (無)	(野面石) 粗加工石 精加工石		
	右	鏑出角 (出角) 入角 鏑入角	(有) 無	野面石 (粗加工石) 精加工石		

加工痕跡	矢穴	海岸石	石材種類
ハツリ (ノミ痕) スダレ 刻印 転用石 建物跡 その他	有 (無)	有 (無)	硬砂岩

	輪取り	反り	石材加工	石積の特徴	その他
築石部	有 (無)	有 (無)	(野面石) (粗加工石) 精加工石	(乱積み) 布積み 谷積み	

加工痕跡	矢穴	海岸石	石材種類
ハツリ ノミ痕 スダレ 刻印 転用石 建物跡 その他	有 (無)	有 (無)	硬砂岩

現況	劣化の状態								
	歪み	ずれ	割れ	抜け	孕み	崩れ	沈下	樹木	その他
天部									○
中部			○	○					
基底部									

上部構造物（絵図等年代）	渡櫓か（享保19年・元文3年・延享2年・明和7年・安政2年・明治初期）

特記事項

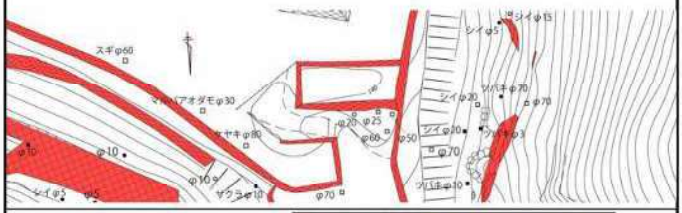
石垣に影響を与える要素
・石材のヌケあり。
・中央上部突出石材あり。

調査年月日	2019/1/6	調査者	株式会社 とっぺん

全体写真

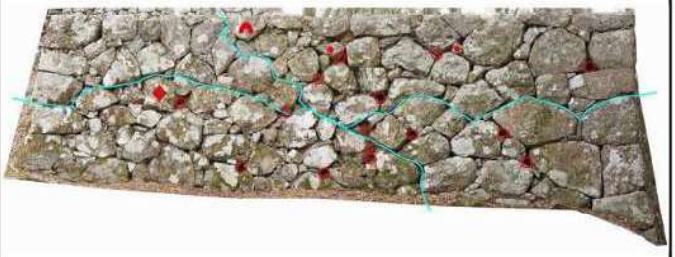


石垣周辺の樹木（位置図・樹種・幹径・樹高） 樹高●2m以下 ■5m以下 ○10m以下 □10m以上 幹径の単位はcm

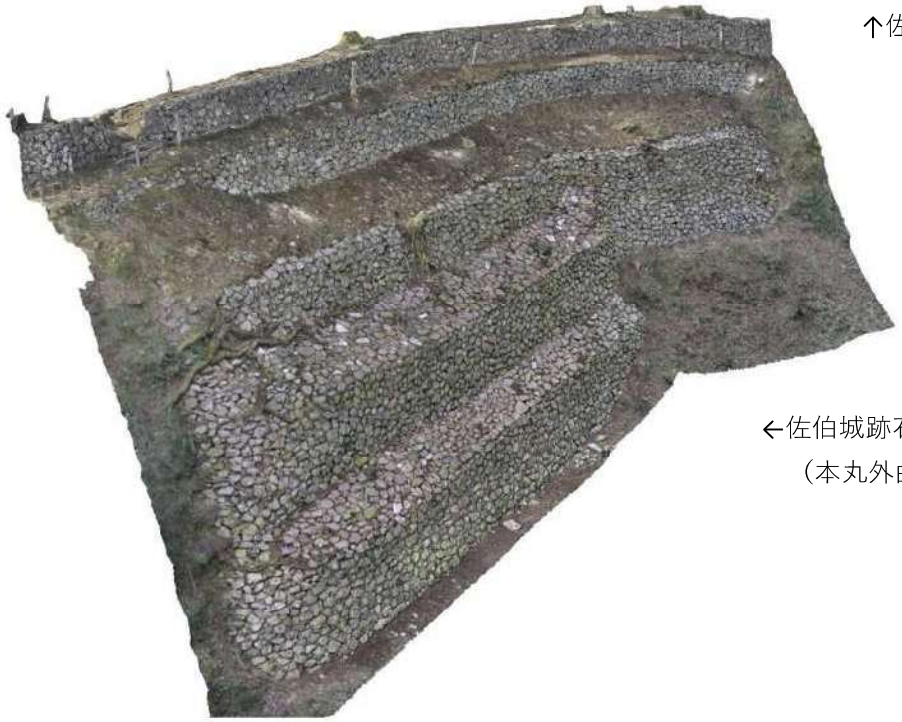


目地の状況・その他（矢穴・刻印等）





↑佐伯城跡石垣調査票（カルテ）記載例



←佐伯城跡石垣３Dモデル作成例
（本丸外曲輪北斜面 雛壇状石垣 No.229～238）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐有 ☑無　計画名［　　］　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端・法面・根石付近)	☐ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等(直近5年以内)	令和６・７年度に、山頂部の石垣保全と景観改善を目的とした樹木の剪定を行った。山腹の自然林や希少動物への影響を避けるため、有識者による指導のもと対象樹木の選定と作業内容を検討した。
植栽管理における課題(自由記述)	佐伯城跡が築かれた城山は、自然林としての価値も高く、史跡保護との両立が課題である。しかし山全体を対象とした植生調査が行われておらず、保護すべき自然林の特徴・範囲が不明確である。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☑ 地形の変状（ひび、沈下等） ☐ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☐ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☐ 年数回の定期　☑ 災害後のみ　☑ 随時
点検の主体	☐ 整備部署　☑ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い ある場合の具体的内容：
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	現時点では明確な方針等は確立していないが、石垣に限らず危険があると判断した箇所に対しては、コーン・バー等による立入禁止・近接禁止措置を応急対応として実施する。
日常点検における課題(自由記述)	石垣の点検や修復作業等に使用できる車両通行可能な道路がなく、山頂部の石垣点検は全て徒歩で行う必要があるため、点検にかかる労力が大きい。

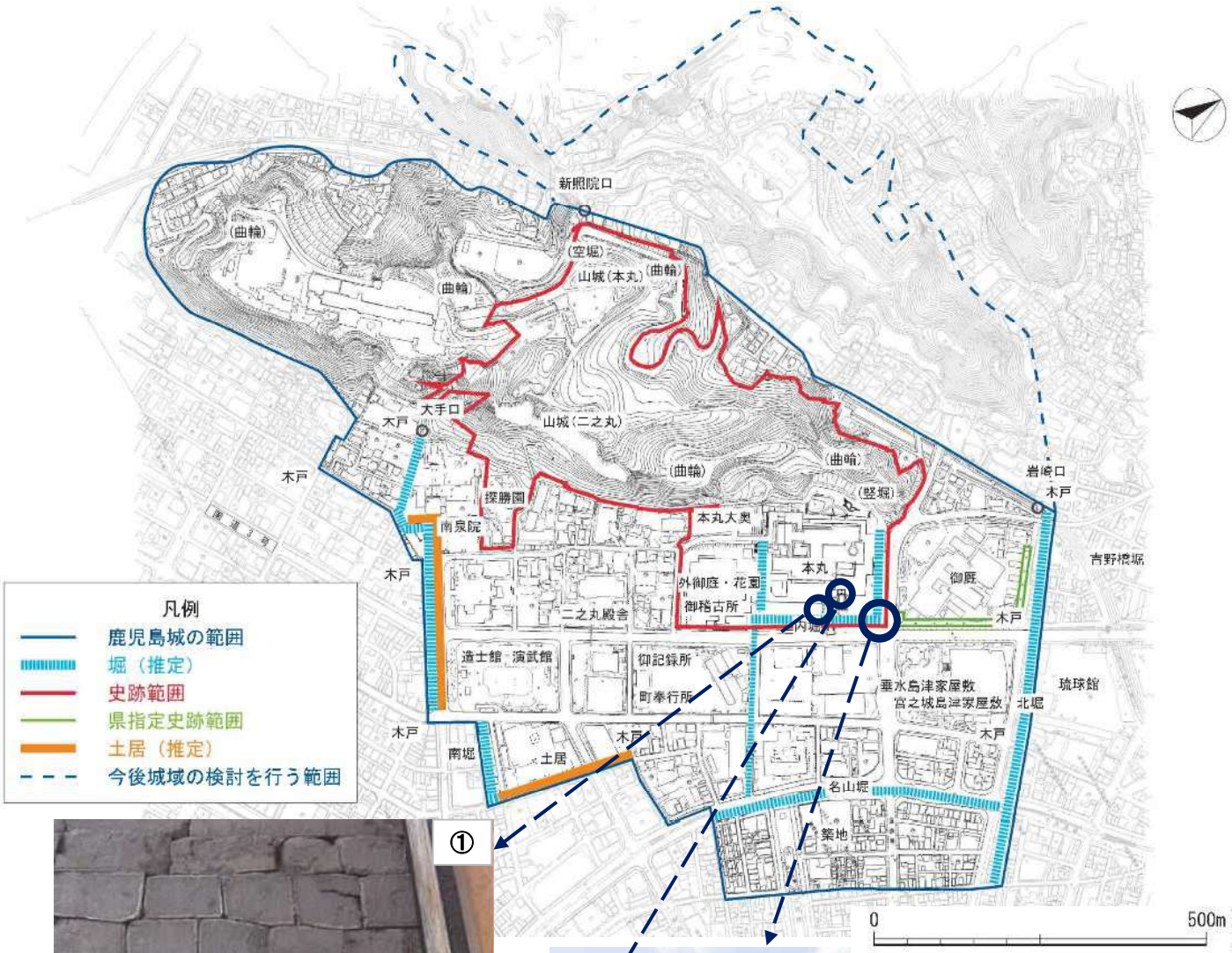
10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☑ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☑ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡鹿児島城跡	都道府県	鹿児島県	市町村	鹿児島市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	令和5年3月20日	指定面積	233,175.37㎡
その他の指定	国指定天然記念物「城山」 県指定史跡「私学校石塀」	その他の法規制	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律、森林法、鹿児島市景観条例、鹿児島県自然環境保全条例　等		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無　令和８年３月策定	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無	令和10年３月策定予定	
調査担当部署	鹿児島県立埋蔵文化財センター 鹿児島市教育委員会文化財課	整備担当部署	鹿児島県観光・文化スポーツ部文化振興課 鹿児島県歴史・美術センター黎明館 鹿児島市公園緑化課		
管理担当部署	鹿児島県観光・文化スポーツ部文化振興課 鹿児島県歴史・美術センター黎明館 鹿児島市公園緑化課	指定管理者	-		
委員会設置状況	史跡鹿児島城跡保全整備専門家検討会議(Ｒ５～) 鹿児島市城山公園の保全に関する検討委員会(Ｒ２～)	その他計画	『天然記念物及び史跡城山保存活用計画』 （令和２年３月　鹿児島市）		
城郭等の概要	鹿児島城跡は、慶長６（1601）年頃、初代薩摩藩主島津家久によって南北朝期に築かれた上山城跡を利用して築城された。標高100～200mのシラス台地南東端にあたる山城と、その麓に築かれた館からなり、天守は持たない。江戸時代を通じて島津家の居城で、薩摩藩の政治・文化・軍事の拠点であった。築城当時は、本丸・二之丸は山城部分にあったが、時代が下り政治的な機能が重視され、近世後半には本丸・二之丸も麓の居館地区に移った。鹿児島城跡の本質的価値・特徴としては、①山城と麓が一体的に機能した城郭であること、②庭園や能舞台に関する遺構、国内外の陶磁器や日時計といった海外交易を示す遺物等の文化的様相、③第11藩主島津斉彬による近代化事業の遺構や、明治10（1877）年の西南戦争時の堡塁や銃弾痕等の日本の近代化の証左、④シラス台地や火砕流堆積物を活かした縄張構造や排水等の水利施設、が挙げられる。				
石垣の面積	約4,494 ㎡	石垣の総延長	1.341 ㎞		
石垣の特徴	築城以来多くの修復がなされ、様々な石積技法がみられる。特徴的な技法として、御楼門桝形周辺には、金場取り残し技法・目地漆喰、亀甲崩し積み等の近世後半に見られる技法が集中するほか、本丸跡の北東隅には鬼門除けに設けられた「隅欠」がある。石材は、火砕流堆積物である溶結凝灰岩を用いている。本丸正面の石垣には、西南戦争や太平洋戦争の銃砲弾痕が残存する。				
近代以降の動向	山城地区は、明治10年の西南戦争時は堡塁が築かれ、その後明治39（1906）年に都市公園「城山公園」として開設された。本丸及び二之丸は、明治４（1871）年の廃藩置県後、鎮西鎮台の第二分営が置かれ、明治６（1873）年に火災により本丸が、明治10（1877）年に西南戦争により二之丸が焼失した。その後、造士館及び第七高等学校造士館、鹿児島大学を経て利用され続けた。鹿児島城跡は、薩英戦争、西南戦争、太平洋戦争と実戦を経験し、石垣には銃弾痕が残っている。昭和55（1979）年には二之丸跡に県立図書館、昭和58（1983）年には本丸跡に鹿児島県歴史・美術センター黎明館が建設され、現在に至る。昭和６（1931）年に事前調査の結果を踏まえ、国指定天然記念物及び史跡「城山」となり、昭和28（1953）と昭和43（1968）年に堀・橋・石垣が県史跡に指定され、令和５（2023）年には本丸・二之丸を加えて国史跡に追加指定された。令和元（2018）年、日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」の構成資産となり、令和２（2020）年からは「御楼門」が復元・公開されている。現在、鹿児島城周辺は周辺の文化施設と併せ、「かごしま歴史・文化ゾーン」としても活用されている。				
維持管理の概要	鹿児島城跡は、山城部分は鹿児島市、居館部分は鹿児島県が主に所有するほか、部分的に国有地、民有地がある。山城部分は、国指定天然記念物でもあるため、植生保護を目的とした外来種除去や公園としての管理が行われている。居館部分は、県歴史・美術センター黎明館及び県立図書館の敷地でもあり、域内の植栽等も含めて管理されている。定期的な石垣の確認は、日常的な目視に加え、月１回変異ゲージの確認を行っている。また、大雨や地震が発生した場合は、城山の法面等や居館部分の毀損がないかを臨時的に確認している。 複数の行政・民間が所有者となっていることも踏まえ、県・市の所管課や文化財主管課からなる「史跡鹿児島城跡担当者会議」を設置し、整備、普及啓発、ライトアップ等の事業に関する意見交換を行っている。また、「鹿児島城跡保全整備専門家検討会議」を設置し、城郭や考古学、城下町研究等の専門家から整備や調査・研究等に関する指導・助言を得ている。その他、調査・研究に関する研究者や観光振興関係部局と随時連携・協力し、調整を行っている。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）









① 金場取り残し積み・目地漆喰
② 西南戦争等の銃弾・砲弾痕
③ 隅欠

参考文献	鹿児島県　2026　『史跡　鹿児島城跡保存活用計画』 鹿児島県　2024　『鹿児島城跡石垣調査報告書』 鹿児島県歴史・美術センター黎明館　2022　『鹿児島（鶴丸）城跡ー保全整備関係事業報告書－』 鹿児島市　2020　『天然記念物及び史跡城山保存活用計画』 鶴丸城御楼門建設協議会・鹿児島県　2016　『鹿児島（鶴丸）城跡保存活用計画』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約90%）　☐ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☑ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[2012] 年　最終更新： [2024] 年
管理方法	☐ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　変異ゲージ数値は毎月確認
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[　]
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☑ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	石垣整備及び管理については、整備基本計画の策定の中で具体的な検討を行う。

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑ 一部取得済（70%）☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　UAV測量は石垣のみではなく、史跡範囲全体の測量として実施
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☑ 経年変化の差分解析等 ☑ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

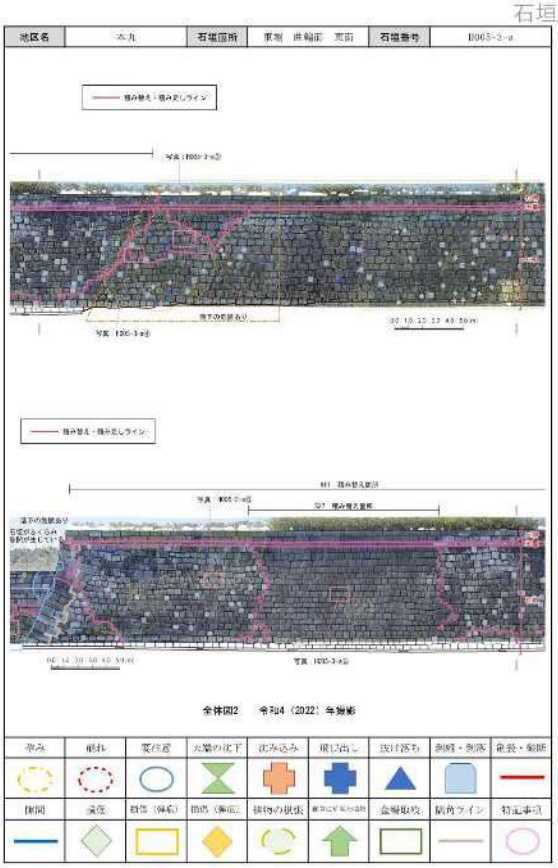
359

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

石垣

地区名	本丸								
石垣箇所	主郭　由輪面　東面								
石垣番号	H005-3-a								
旧石垣番号	A面（A1面、A8面）								
関連する施設	御楼門(鶴丸城)、御見物坂、鹿児島城跡								
石垣の規模等	石垣延長	天端	100.7 m						
		下端	104.5 m						
	石垣高さ	左	7.7 m						
		中央	7.6 m						
		右	6.9 m						
	面積	約735.6 ㎡							
技法の基本的特徴	隅角部	積み方	比較的緩勾配面では、上端2段はやや整形度合いを上げた角石・角脇石であるが、それより下段は、整った大きな石材で横長の精度の出石を用い、面積で石脇石の石材で収まる大きさとするなど、全体的に整然と積上げた典型的な算木積みを呈す。勾配はゆるやかな場合でやや反る。稜線に直線的に長く通す。また、上段の角石には金槌痕の加工を施していない。 一方、南端の比較的急な勾配面上やや異なる。上方体の角石・角脇石で構成しているが、角脇石がやや大きく、角石の右辺より突出へはみ出す。勾配は緩方で積み上げていくが、上部で強く反る。これらの特徴から推測すると御楼門側よりやや後の時期の構築か。 御楼門の同七石積の出角は、ほぼ同じ技で構築。							
		形状	方形						
		面仕上加工	ノミ加工あり						
		石材	溶結凝灰岩						
	築石部	積み方	一部にやや乱れがみられる点、全体的な基本の積み方は、高さを揃えた横長の石材を用いた整った布積みである。ただし、石材の完全な整形化には至っておらず、それらすき間に小間詰めも行っている。特に御楼門直下段の石には当初の石積みが良好に残る。 H005-1～-4の御楼門周の築石とはやや異なる技で構築。時期差の可能性があり、当初は積み							
		形状	方形・多角形・粗加工石						
		面仕上加工	ノミ加工あり						
		石材	溶結凝灰岩						
	築石部の基本勾配	70～70.2度							
	反り	有（無）							
	気食い	有（無）							
	矢穴	有（無）							
	刻印	有（無）							
石垣履歴	石垣構築	構築時期	江戸期以前	江戸期（前・中・後）	明治・大正期	昭和期	平成・令和期		
	石垣改修	改修時期	江戸期以前	江戸期（前・中・後）	明治・大正期	昭和期	平成・令和期		
		改修範囲	全部・一部	全部・一部	全部・一部	全部・一部	全部・一部		
		改修起因		本格から石垣への転写	御新営の設置	豪雨	経年劣化		
調査年月日	令和4（2022）年1月・9月・11月・12月			調査者	業務担当・技術・手・石質・変質・他				

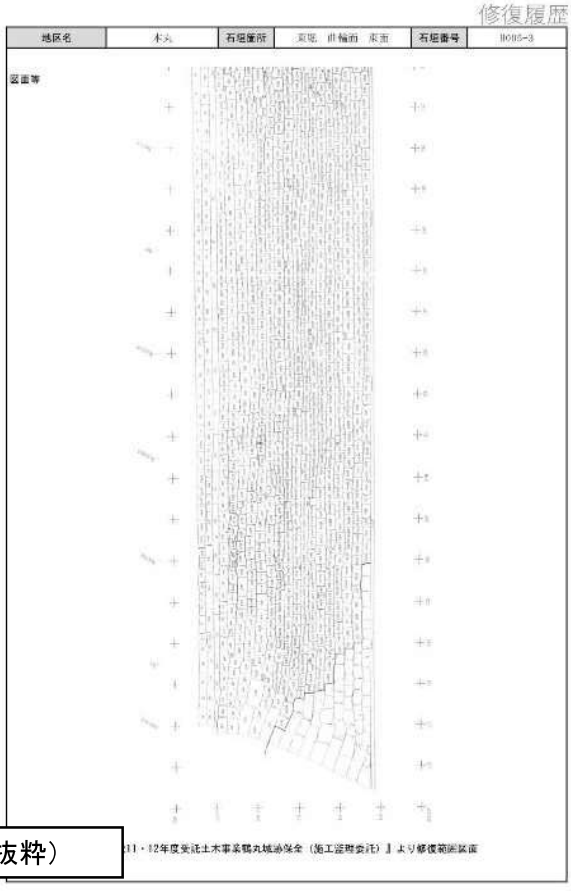
石垣



調査履歴



修復履歴



石垣カルテ（抜粋）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☑ 整備部署　☑ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端・法面・根石付近)	☐ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等(直近5年以内)	
植栽管理における課題(自由記述)	石垣に絡んだ樹木の対応を検討中

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☐ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☑ 機器による動態観測（観測内容：変異ゲージ（クラックゲージ） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☑ 月1回程度　☐ 年数回の定期　☐ 災害後のみ　☐随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☑ 今後行う予定　☐ 行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	異変を確認後、主管課及び文化財主管課と情報共有し、状況に応じて対応を検討。
日常点検における課題(自由記述)	作成中の整備基本計画において、日常点検の具体や体制等について改めて整理し、明記する予定。

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☑ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［修理時期や場所は特定されているが、施工工法や図面等については不十分なものもある］
修理履歴・記録の活用状況	☑ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

361

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡首里城跡	都道府県	沖縄県	市町村	那覇市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和47年5月15日	指定面積	7.3ha
その他の指定	首里城跡書院・鎖之間庭園（国指定名勝） 園比屋武御嶽石門（国指定文化財【建造物】）	その他の法規制	沖縄県国営沖縄記念公園内施設の設置及び管理に関する条例		
保存活用計画	☐ 有 ☑ 無	整備基本計画	☑ 有 ☐ 無	昭和59年策定	
調査担当部署	沖縄県教育庁文化課（発掘調査　平成12年まで） 沖縄県立埋蔵文化財センター（発掘調査　平成13年から）	整備担当部署	沖縄県都市公園課（公園整備） 沖縄県首里城復興課（防災設備） 内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所（城内の建物の整備） 沖縄県教育庁文化財課 （城壁・櫓門）		
管理担当部署	内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所 首里出張所（国営公園部分の維持管理・城内の建物） 沖縄県都市公園課（県営公園部分の維持管理、城内の建物） 沖縄県教育庁文化財課（外郭、櫓門の整備） 那覇市文化課（園比屋武御嶽石門）	指定管理者	一般財団法人沖縄美ら島財団		
委員会設置状況	首里城公園懇談会（昭和61・62年度） 首里城正殿設計委員会（昭和61～63年度） 首里城城郭調査検討会（昭和63年度） 御庭ゾーン等基本設計委員会（昭和63年度） 首里城復元に向けた技術検討委員会（令和元年～） 首里城公園管理体制構築検討委員会（令和3年～）	その他計画			
城郭等の概要	首里城の創建年代は明らかではないが、14世紀前半～半ばには最初の正殿が創建されたと考えられ、1427年には第一尚氏の尚巴志により、北側に龍潭と呼ばれる池が整備され周辺の開発が行われていることから、15世紀前半頃には現在の内郭は整備されていたとみられる。第二尚氏の尚真王の治世には外郭の拡張が行われ、15世紀後半～16世紀前半頃には現在とほぼ同じ規模となった。その後は城内の建物の増改築で一部の石積の改変などはあったとみられるが、明治12年（1879）に琉球処分を迎えるまで城郭の拡張等は行われていない。				
石垣の面積	約10,000 ㎡	石垣の総延長	1.08 ㎞		
石垣の特徴	琉球石灰岩を使用した石積で作られている。積み方は布積みまたは相方積みであり、裏込めとして琉球石灰岩の栗石を積んでいる。城壁は地形に沿って曲線を描く独特な形態で、築造時期は内郭は15世紀前半、外郭は16世紀前半頃と差がある。城壁の内側には犬走が設けられ、一部の隅角では上部が突出するなど本土の石垣と異なる構造である。				
近代以降の動向	琉球処分後は正殿などの首里城内の建物は王宮としての役割を喪失し、明治12年から明治29年（1879～1896）までは日本陸軍の熊本鎮台沖縄分遣隊の軍営として利用され、その後は首里区（後の首里市）に払い下げられて、学校や役所などの施設として利用された。その過程で奉神門など一部の建物が撤去されている。 大正時代に入ると首里城の建物は老朽化が著しくなり、倒壊の危険から大正12年（1923）には正殿の取り壊しが検討された。その際、沖縄の文化調査を行っていた東京帝国大学教授伊東忠太、鎌倉芳太郎ら関係者の奔走によって取り壊しは中止となり、明治30年（1897）制定の古社寺保存法の対象になるよう正殿の背後に沖縄神社を建立し、正殿を神社の拝殿とすることで国の予算で修復できるよう取りはからった。昭和4年（1929）に国宝保存法が制定されると正殿は国宝に指定されたが、昭和20年（1945）の沖縄戦時に城の地下に陸軍32軍総司令部がおかれたこともあり、城壁と建物は米軍の砲撃等で破壊され、戦後は琉球大学が置かれるなど大幅な改変が行われた。昭和47年（1972）5月に国の史跡に登録されてからは城壁と櫓門の復元が行われ、今日に至るまで経過観察と悉皆調査、石積の積み直しが行われている。				
維持管理の概要	首里城公園内の維持管理は外郭および城壁を沖縄県が、内郭内部の建物を国（内閣府沖縄総合事務局）が管理していたが、建物は平成31年（2019）より管理運営が沖縄県に移管され、国が管理運営を委託していた一般財団法人沖縄美ら島財団が主体となり維持管理を行っている。 城壁の動態観測は外郭城壁については県が発注した業務委託で実施し、城壁を複数の地区に分けて1年に１地区ごとに測量を行い、復元時と現状を見比べて確認を行っている。また、城壁の修復が必要な際は積み直し等の修復を行っている。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



西から見た外郭城壁および建物群



木曳門周辺（Ｒ７カルテ作成）





西のアザナ城壁
（Ｒ７カルテ作成）



南城郭城壁
（Ｒ４～６修理）



首里城跡航空写真（上が北）

参考文献	沖縄開発庁沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所　1994『国営沖縄記念公園首里城地区建設の記録 【平成の復元】』 沖縄開発庁沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所　1995『国営沖縄記念公園首里城地区計画・設計の記録 【平成の復元】』 ※城壁の調査内容や城壁の画像の出典は令和4～7年度の悉皆調査および修理の成果品

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 作成済　☑ 一部作成済（作成率：約10%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 作成済　☑ 一部作成済（作成率：約10%）　☐ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☑ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　R6　] 年　最終更新：[　R7　] 年
管理方法	☐ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☑ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☑ 一部実施済　☐ 実施中　☐ 未実施（検討中） 未実施の理由　[　]
実施方法	☐ 自治体直営　☑ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

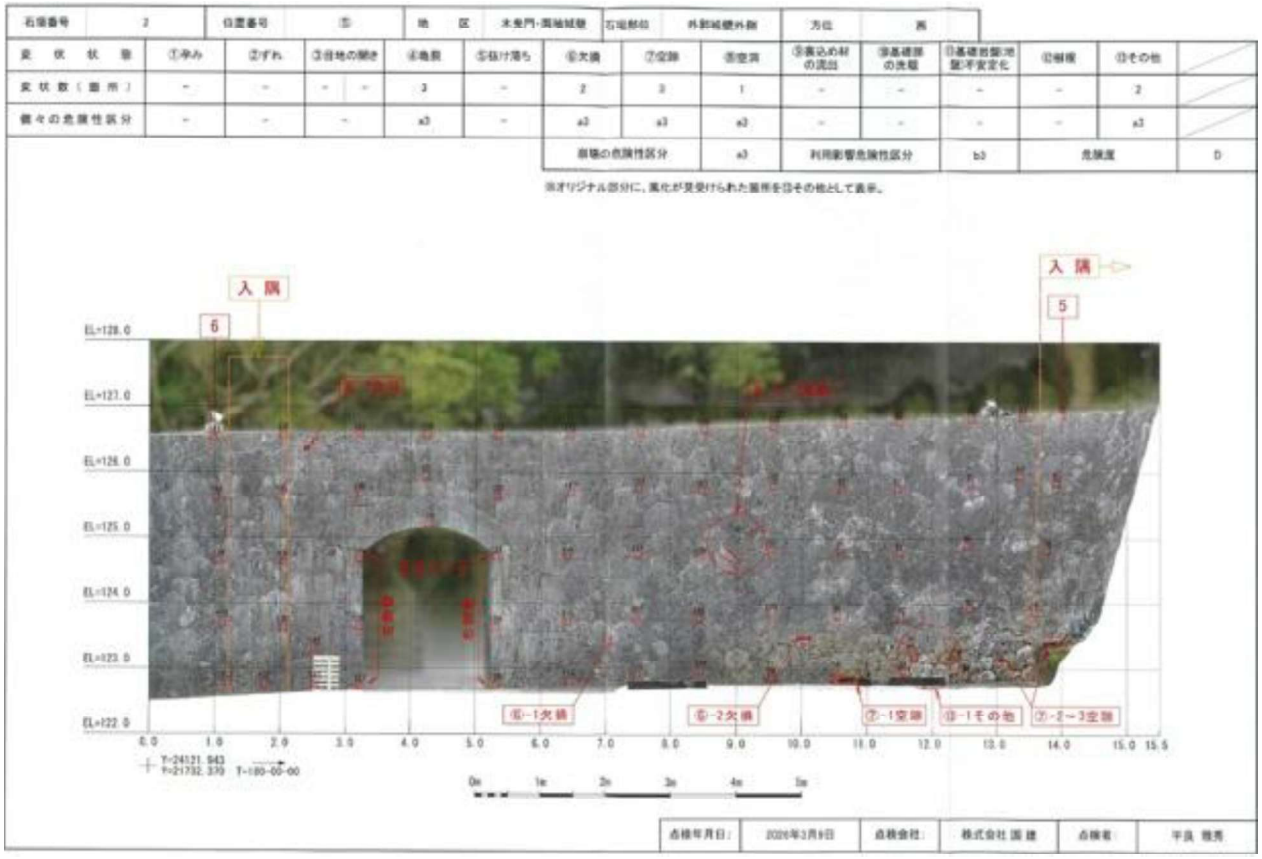
5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☑ 表面舗装 ☐ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☑ 遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑ 一部取得済（５%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☑ 調査・研究　☐ 記録保存　☑ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）



令和７年度　首里城跡外郭城壁測量・悉皆調査業務委託の調査結果より抜粋

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☑ 有 ☐ 無　　計画名［ 国営沖縄記念公園首里城地区整備計画 ］　策定年度［平成25年］
実施主体	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端･法面･根石付近)	☐ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績･内容等(直近5年以内)	歴史・文化に根差した植物景観の復元
植栽管理における課題(自由記述)	城郭南側における立入困難な場所の恒常的な植栽管理

9.日常点検･実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☐ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☐ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☐ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☐ 年数回の定期　☐ 災害後のみ　☑ 随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 管理部署　☑ 委託（指定管理等）　☐ ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	
日常点検における課題(自由記述)	

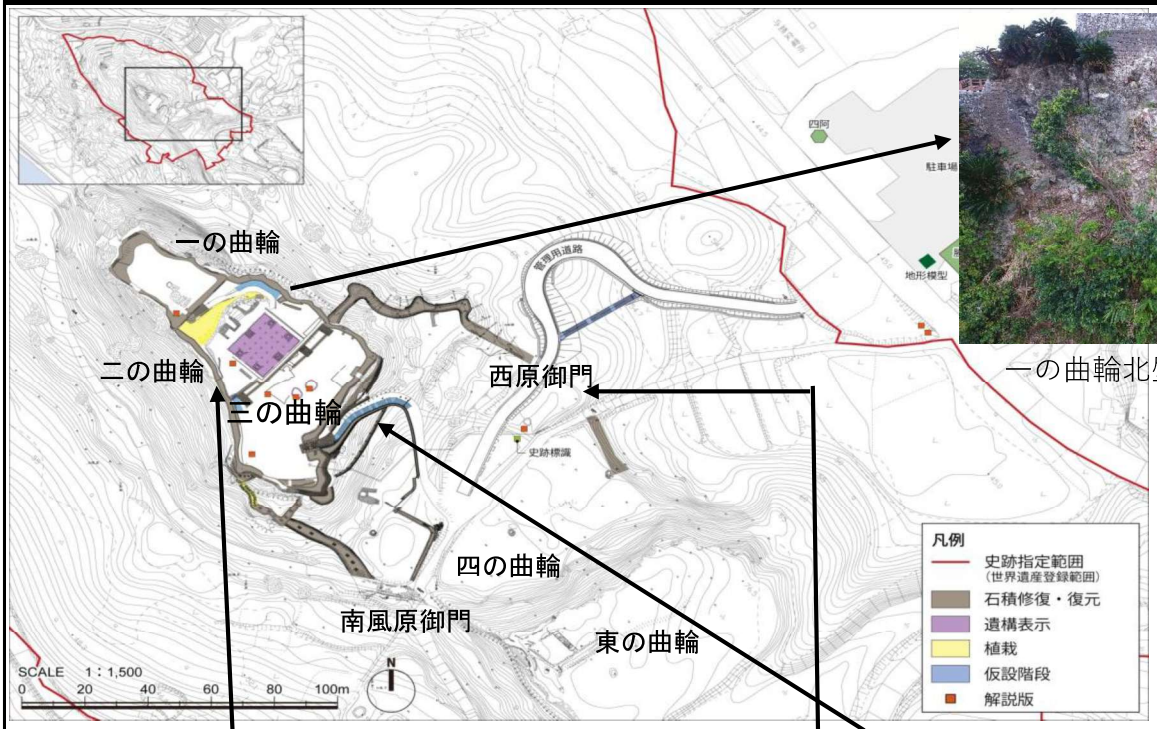
10. 石垣修理履歴･記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　記録が確認できていない　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☑ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴･記録の活用状況	☑ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	勝連城跡	都道府県	沖縄県	市町村	うるま市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和47年5月15日	指定面積	131,774.68㎡
その他の指定	なし	その他の法規制	森林法(保安林),都市計画法 景観法に基づくうるま市景観条例		
保存活用計画	□ 有 ☑ 無	整備基本計画	☑ 有 □ 無	平成27年３月策定	
調査担当部署	うるま市教育委員会文化財課	整備担当部署	うるま市教育委員会文化財課		
管理担当部署	うるま市教育委員会文化財課 プロジェクト推進２課	指定管理者	(株)勝連城跡PFI特別目的会社		
委員会設置状況	勝連城跡整備委員会【平成14年～現在】 勝連城跡周辺文化観光整備プロジェクト【平成24年～現在】	その他計画	勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画(平成25年)		
城郭等の概要	勝連城の築城は、定かではないが13世紀頃と考えられている。初代城主は、勝連按司とされ、その後伊波按司、浜川按司などが継ぎ、第10第目城主である阿麻和利まで続いた。その過程で、海外交易により勢力を増し、5つの曲輪からなる城郭を築き上げた。1458年、宿敵であった中城城の城主護佐丸を攻めて打ち勝ち、その後首里城を攻めるが、負けてしまい廃城になったとされる。その後の歴史は不明であるが、城(グスク)は信仰の対象となり、城内では拝所やカー(井戸)が地域信仰の対象となっていった。明治期の古写真には一～三の曲輪の石垣は崩れてしまっているが、四の曲輪の外郭及び東の曲輪の石垣の一部が崩落しながらも残っている様子が写っている。その後、大正期から昭和初期にかけて周辺の護岸整備のための建築資材として石垣が取り壊され、石垣の大半が消失した。				
石垣の面積	約1,200 ㎡	石垣の総延長	約0.4 ㎞		
石垣の特徴	築石の素材は、琉球石灰岩。表面を平滑に加工した切石を使用し、布積みにする。隅角部は、直角ではなく琉球のグスク特有の曲線を呈しており、間詰石はほとんど用いられない。天端は大正時代の壊変により本来の形態は不明。基底は石灰岩丘陵上に築かれていて、石灰岩岩盤を斫って平らに整形し根石が置かれている。				
近代以降の動向	明治20～30年に作成された南風原地域の地積図(南風原文書)には、城の範囲が「拝所」として記載されているように、地域信仰の対象として位置づけられていた。 大正期から昭和初期において周辺の護岸整備により石垣の石材が取り崩され、資材として利用された。そのことにより大半の石垣が消失する。 沖縄戦(太平洋戦争)の爆撃による大きな被害はなく、昭和39年に米軍統治下の中、琉球政府文化財保護委員会による発掘調査が行われた。その後、昭和42年４月11日、琉球政府文化財保護委員会による史跡指定がなされ、昭和47年５月15日、沖縄県の本土復帰と同時に国指定史跡となる。昭和51年に『国指定史跡勝連城跡保存管理計画書』が作成され、昭和52年より一の曲輪の北西側石積の修復工事が始まる。				
維持管理の概要	勝連城跡の維持管理は、観覧エリアの平面的な草刈りについては委託業務により実施していたが、現在はPFI事業社により実施されている。石垣の維持管理については、日常管理として、管理者による目視観察が実施されている。しかしながら、観察が困難な箇所については、管理が行き届かず、かつ伐採等の対応ができていないことが課題であり、そのほか予算や人員等多くの課題がある。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）

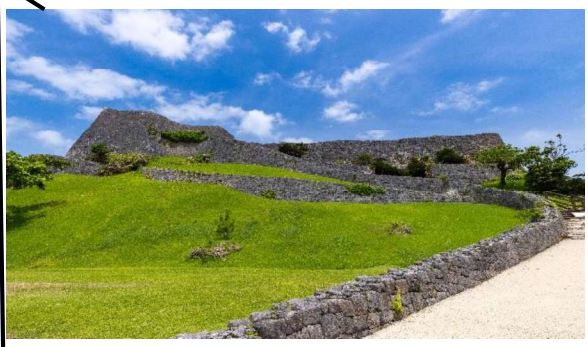




一の曲輪北壁および基岩盤



一の曲輪～二の曲輪南壁および基岩盤



三の曲輪東壁(四の曲輪内から撮影)



勝連城跡全景(東から撮影)



西原御門石垣

参考文献	うるま市教育委員会　2019　『国指定史跡勝連城跡環境整備事業報告書Ⅵ』 うるま市教育委員会　2016　『史跡勝連城跡　保存管理計画』 うるま市教育委員会　2015　『史跡盛岡城跡　整備基本計画』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 昨成済　☐ 一部作成済　（作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☐ 一部作成済　（作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☑ 整備部署　☑ 調査部署 その他［　］
実施主体	☑ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[2024] 年　最終更新：[20024] 年
管理方法	☑ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[　]
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

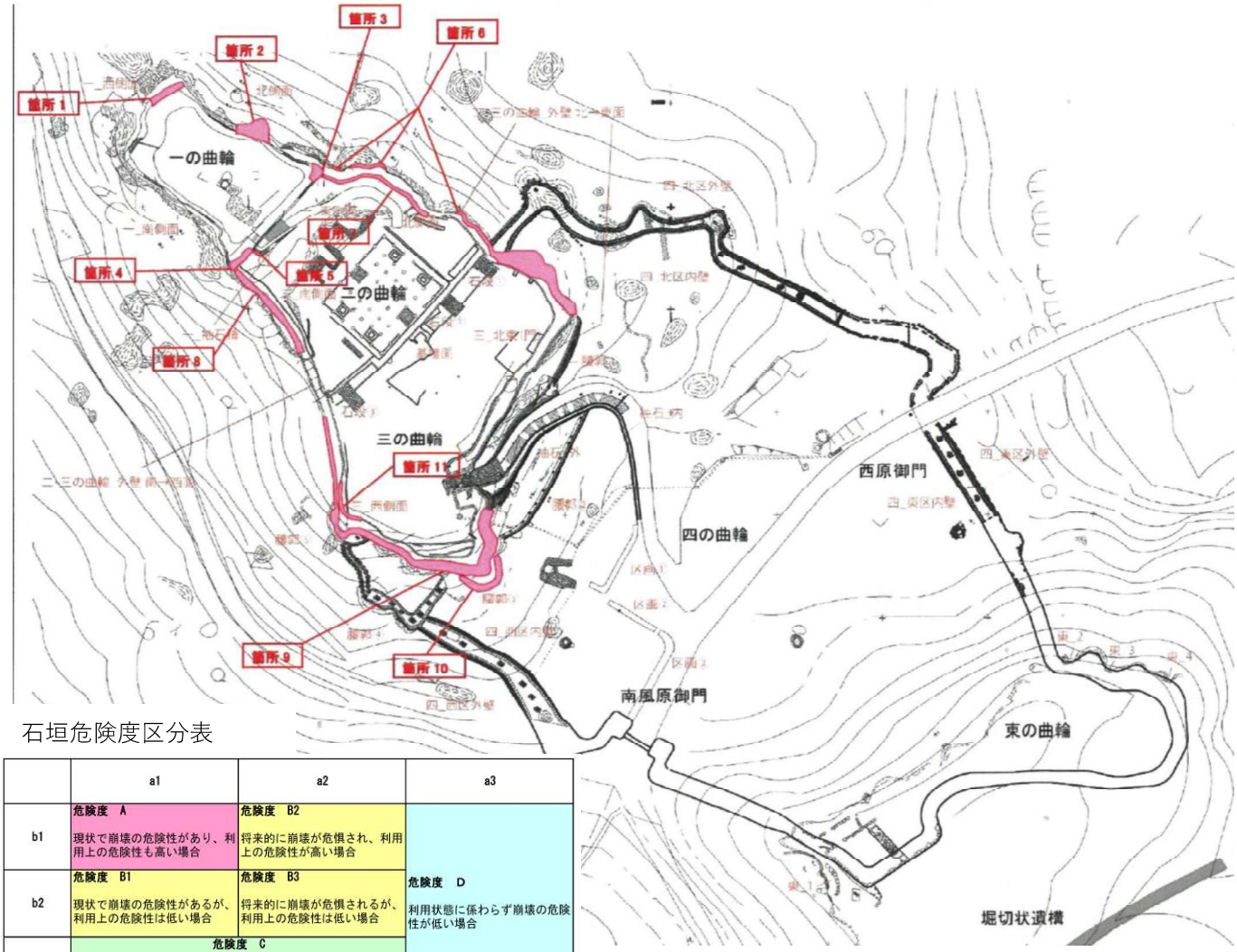
5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☑ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☐ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　上記内容を修理した石垣天端で施工したが、今後の整備においても検討している］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑ 一部取得済（70%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☑ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）



石垣危険度区分表

	a1	a2	a3
b1	危険度　A 現状で崩壊の危険性があり、利用上の危険性も高い場合	危険度　B2 将来的に崩壊が危惧され、利用上の危険性が高い場合	危険度　D 利用状態に係わらず崩壊の危険性が低い場合
b2	危険度　B1 現状で崩壊の危険性があるが、利用上の危険性は低い場合	危険度　B3 将来的に崩壊が危惧されるが、利用上の危険性は低い場合	
b3	危険度　C 崩壊の危険性や危惧はあるものの、利用上の危険性がほとんど無い場合		

石垣危険度区分

石垣番号	名称	崩壊する危険性区分	利用上の危険性区分	危険度区分	備　考
00	基礎部	a1	b1	A	
01	一の曲輪　内壁	a1	b1	A	
02	一の曲輪外壁　東側面①	a1	b1	A	
03	一の曲輪外壁　東側面②	a1	b1	A	
04	一の曲輪外壁　南側面	a2	b1	B2	
05	一の曲輪外壁　西側面	a1	b1	A	
06	一の曲輪外壁　北側面①	a1	b1	A	
07	一の曲輪外壁　北側面②	a1	b1	A	
08	一の曲輪外壁　北側面③　二段目	a2	b2	B3	
09	一の曲輪　袖石積（石段）	a1	b1	A	
10	二の曲輪内壁　南側面	a2	b1	B2	
11	二の曲輪内壁　北側面	a1	b1	A	
12	二の曲輪　基壇正面	a2	b1	B2	
13	二の曲輪　石段①	a2	b1	B2	
14	二の曲輪　石段②	a2	b1	B2	
15	二の曲輪　石段③	a2	b1	B2	
16	三の曲輪内壁　西側	a1	b1	A	
17	三の曲輪　内壁北東（門）	a2	b1	B2	
18	三の曲輪　袖石積（石段）内側	a2	b1	B2	
19	三の曲輪　袖石積（石段）外側	a2	b1	B2	
20	二・三の曲輪外壁　南→西面	a1	b1	A	
21	二・三の曲輪外壁　北→東面	a1	b1	A	
22	四の曲輪　北区内壁	a2	b2	B3	
23	四の曲輪　北区外壁	a2	b3	C	
24	四の曲輪　東区内壁	a2	b1	B2	
25	四の曲輪　東区外壁	a2	b1	B2	
26	四の曲輪　西区内壁	a2	b1	B2	
27	四の曲輪　西区外壁	a2	b2	B3	
28	腰郭①	a2	b1	B2	
29	腰郭②	a2	b1	B2	
30	腰郭③　外側_内側	a1	b1	A	
31	腰郭④	a1	b2	B1	
32	腰郭⑤	a1	b2	B1	
33	四の曲輪　区画石積①	a2	b1	B2	
34	四の曲輪　区画石積②	a2	b1	B2	
35	四の曲輪　区画石積③	a2	b1	B2	
36	東の曲輪	a1	b3	C	

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	□ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	□ 管理部署　□ 整備部署　□ 調査部署　□ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端・法面・根石付近)	☑ 伐採・除去　□ 景観に配慮し、限定的伐採　□ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等(直近5年以内)	R6：城壁外の景観を阻害する高木の強剪定
植栽管理における課題(自由記述)	沖縄地域は植栽の成長度が早く、維持するためには膨大な予算が継続的に必要となるため予算確保が課題である。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　□ 間詰石の抜け落ち　☑ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑ 危険木の観察　□ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　□ 機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	☑ 毎日　□ 週1回程度　□ 月1回程度　☑ 年数回の定期　□ 災害後のみ　□ 随時
点検の主体	☑ 整備部署　□ 調査部署　□ 管理部署　☑ 委託（指定管理等）　□ ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	□ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	□ 行っている　☑ 今後行う予定　□ 行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	整備委員会で報告を行った上で、修理方法を検討を実施。
日常点検における課題(自由記述)	日常点検については、来場者の入域範囲については実施しているが、その範囲外については環境および管理体制(人員不足等)により定期的な観察および対応もできていない。

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	□ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている □ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　史料なし　］
近現代の修理記録の把握度	□ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） □ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 □ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　史料なし　］
修理履歴・記録の活用状況	□ 今後の修理計画の検討に活用している □ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している □ 具体的な活用はしていない その他　［　　史料なし　］

1.城跡等の総括的事項					
名称(遺跡名)	史跡具志川城跡	都道府県	沖縄県	市町村	糸満市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和47年5月15日	指定面積	17,000㎡
その他の指定	特になし	その他の法規制	自然公園法、森林法、漁業法、糸満市風景づくり計画		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無　平成30年3月30日策定	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	糸満市教育委員会生涯学習課	整備担当部署	糸満市教育委員会生涯学習課		
管理担当部署	糸満市教育委員会生涯学習課	指定管理者	なし		
委員会設置状況	史跡具志川城跡保存整備検討委員会（令和7年～）	その他計画	具志川城跡及び周辺グスク環境整備基本構想（平成9年） 具志川城跡整備実施計画（平成15年3月）		
城郭等の概要	具志川城跡は、沖縄本島南端に築かれたグスク時代の城跡である。グスク跡は太平洋に突き出た標高約17m、琉球石灰岩の断崖絶壁上に築かれ、先端部に岬の郭、その東に物見の郭、東方に城門の郭が置かれる。南、西、北は断崖絶壁であり、太平洋を一望することができる。城壁は琉球石灰岩を用いた野面積みで、断崖上では低く、陸地に続く部分は高く積み上げられ、高いところでは5～6mある。虎口は幅広く門の両脇の石積は高く積み上げ、切り石を用いた痕跡が残る。伝承によれば、具志川城跡を築いたのは久米島の具志川城の城主であった真金声按司とされる。発掘調査の結果、出土量は少ないが、13世紀～15世紀の遺物が出土している。このような海岸に突出した石灰岩台地上に築城されたグスクは他に例がなく、城郭としての形態もよくとどめており、沖縄本島最南端のグスクという地理的な位置も極めて重要である。				
石垣の面積	693.44 ㎡	石垣の総延長	0.194 ㎞		
石垣の特徴	近隣地から産出した琉球石灰岩を使用した石積である。主に野面積みで積まれているが、一部に切り石を用いた布積みも認められる。基盤岩の窪みに合わせ、基礎となる石材をはめ込みながら地形を上手く利用し積み上げられており、平面形状も基盤岩の形状に合わせ屏風状に積み上げるなど、高度な技術の石積手法が見受けられる。				
近代以降の動向	明治政府は、廃藩置県の前段として明治5年（1872）に琉球藩を設置し、明治12年（1879）に琉球藩を廃して沖縄県を設置した、その際、具志川城跡の所在する喜屋武間切は喜屋武村に改称した。昭和20年（1945）に沖縄本島に上陸した米軍は、瞬く間に沖縄県下を占領していった。海からの激しい砲撃に対し、具志川城跡の崖下では、戦前に構築されたとみられるコンクリート造りのトーチカ（戦争遺構）を確認している。戦後、昭和34年（1959）、琉球政府文化財保護委員会によって琉球政府史跡に指定され、昭和47年（1972）沖縄県の日本復帰に伴い国指定史跡となった。平成20年（2008）には、南西側先端部が追加指定された。国指定後は、城内の一部の草刈りや清掃を年に数回行い、本城跡を拝みの対象とする地元住民などが年中行事で時々訪れる程度で、史跡の調査や整備は行われていなかった。しかし、保存と活用を求める声が高まり、平成9年（1997）「具志川城跡及び周辺グスク環境整備基本構想」を策定、これを皮切りに本格的な保存整備事業がスタートした。平成10年（1998）から平成27年（2015）まで主に石積の修理、岩盤補強工事を実施した（第Ⅰ期工事）。令和7年（2025）からは、第Ⅱ期工事として、整備基本計画の策定や城跡全体の再整備工事を実施している。				
維持管理の概要	具志川城跡の維持管理は、糸満市教育委員会が主体となり、市の直営で実施している。日常の維持管理は糸満市教育委員会と地元である喜屋武自治会が行っている。城内の除草については、喜屋武自治会に委託し、年に3回程度実施している。石積みに生えている植物（城外側）に関しては、断崖絶壁上に所在するという城の特性上、なかなか除草できないという現状である。 2026年度から、石垣カルテの作成に着手する予定としており、定期的な観測については目視で行っている。台風や地震等の災害が発災した場合は、市の担当者が直接現地確認を行い、被害有無を確認している。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



城門（北のアザナ、東のアザナ）北面
（城内で一番高い石積）



全景（南から）





物見の郭北面（基壇状の石積が残る）



南のアザナ南面（断崖絶壁の上に曲線で築かれた石積）

参考文献	糸満市教育委員会　1998　『具志川城跡及び周辺グスク環境整備基本構想』 糸満市教育委員会　2003　『具志川城跡整備実施計画報告書』 糸満市教育委員会　2012　『具志川城跡　史跡　具志川城跡保存修理事業報告書』 糸満市教育委員会　2016　『具志川城跡』 糸満市教育委員会　2018　『国指定史跡　具志川城跡保存活用計画書』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 作成済　☐ 一部作成済（作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［2026年度から作成予定。］
オルソ画像の作成	☐ 作成済　☐ 一部作成済（作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☑ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：［　］年　最終更新：［　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[予備診断に割くことのできる人員がいなかったため。]
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［現状、石積からの自然排水で問題ないため、特に対策は行っていない。］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☐ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［現状、自然排水で問題ないため、特に排水対策は行っていない。］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☑ 全面的に取得済　☐ 一部取得済（　%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☐ 調査・研究　☑ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［今後は、調査・研究や経年変化の差分解析等にも活用していく予定。］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

未実施

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端・法面・根石付近)	☐ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等(直近5年以内)	年に3回程度、城内の除草を実施。R7：石積の調査にあたり、城内側と天端付近の除草を実施。
植栽管理における課題(自由記述)	城内における除草は定期的に実施しているが、石積に生えている植物（特に城外側）に関しては高さ約15mの断崖絶壁上に立地するという城跡の特性上、定期的な除草ができていない。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☐ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☐ 年数回の定期　☐ 災害後のみ　☑ 随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	整備委員会で状況報告を行ったうえで、修理方法の検討を実施。
日常点検における課題(自由記述)	日常の点検は市の担当者が随時行っているが、定期的に確認できる体制・仕組み作りが必要。また、目視での点検だけでなく、数値として変状を確認できるような方法が必要と感じている。

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［修理の履歴に関する資料等は残っていない。　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［平成10年（1998）の整備開始以前の修理に関する履歴は残っていない。　］
修理履歴・記録の活用状況	☑ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡　玉城城跡、名勝　アマミクヌムイ玉城アマツヽ	都道府県	沖縄県	市町村	南城市
文化財種別	国指定史跡、名勝	指定年月日	昭和62年8月21日	指定面積	25,465㎡
その他の指定		その他の法規制	南城市都市計画マスタープラン（風致地区・特定用途制限地域）		
保存活用計画	☐ 有　☑ 無	整備基本計画	☐ 有　☑ 無		
調査担当部署	南城市教育委員会文化課	整備担当部署	南城市教育委員会文化課		
管理担当部署	南城市教育委員会文化課	指定管理者	なし		
委員会設置状況	玉城城跡整備委員会（平成22年～26年）	その他計画	南城市歴史文化基本構想保存活用計画（平成23年）、南城型エコミュージアム実施計画（平成29年）		

城郭等の概要	伝承によると、琉球開闢の祖アマミキヨにより築かれ、子孫の天孫氏が代々城主となっていた。14世紀初頭頃、英祖王統第4代目の玉城王の居城となるが、王位継承と共に浦添城へ移り、実弟を城主とした。この時代に大規模な城普請を行ったと伝えられている。以後、玉城一帯を治める玉城按司の本拠地として栄え、最盛期には西側の守りの備えとして二男に大城城跡、三男に糸数城跡を築かせたとされている。 城跡は、琉球石灰岩台地上に位置し、標高約180mを測る独立丘陵とその裾を取り込むように主郭、二の郭、三の郭によって構成される連郭式の古城である。しかし、戦後、隣接する米軍施設建設のための資材として石材が取り外され、主郭を除く石垣は根石の一部を残すのみとなっている。

石垣の面積	約600 ㎡	石垣の総延長	0.28 ㎞

石垣の特徴	比較的残りのよい主郭は琉球石灰岩を高さ約1.7m、最大幅約1.7mほどを卵型に刳り貫いて虎口としており、本城跡の大きな特徴である。城壁は、外面に琉球石灰岩の切石を用いた布積、内面は人頭大の自然石を用いた野面積みで積上げられており、一部で相方積もみられる。
近代以降の動向	第二次世界大戦時には熾烈な沖縄戦（1945年）があり、玉城城跡も米軍の艦砲射撃の被害にあったとされている。戦後、城跡北側に隣接する米軍施設建設のための資材として石材が取り外され、主郭以外は根石等を一部残すのみとなった。昭和35年（1960）、琉球政府文化財保護委員会による測量調査が行われ、調査成果をもとに昭和36年（1961）に県指定史跡に指定された。その後、「沖縄で最も著名な城の一つであり、重要な遺跡である。」として、昭和62年（1985）国の史跡に指定された。 平成15年（2003）、玉城城跡整備実施計画策定のための各種調査が実施され（平成16年まで）、平成20年（2008）より国庫補助を活用した整備事業が実施された（平成27年まで）。令和6年（2024）、主郭北側城壁が崩落をきたし、令和7年（2025）より修復のための整備事業を実施している。
維持管理の概要	玉城城跡の維持管理は、市直営にて実施している。史跡内の草刈りを市シルバー人材センターに委託し、年に数回定期的に実施している。石垣面に自生する樹木等については、石垣への影響等を検討のうえ、市が別の委託業務にて実施する場合がある。 日常的な点検管理として、市担当者が目視にて定期的に現地確認を行っている。また、地震・台風等の自然災害の発生した場合は、市担当者が直接現地を確認し、被害の有無を確認している。

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



主郭北側城壁内面（修復後）



三の郭東側城壁（検出状況）



主郭南側城壁外面



主郭正門

参考文献	玉城村教育委員会　2005　『玉城城跡整備実施計画　報告書』 南城市教育委員会　2015　『玉城城跡－整備事業報告書－』 南城市教育委員会　2017　『南城市のグスク』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他 [「玉城城跡整備実施計画」の中で調査実施　]
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約30%）　☐未作成 その他 [　]
作成担当部署	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☐ 調査部署 その他 [　]
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他 [　]
作成年 / 更新年	初回：[2003] 年　最終更新：[　] 年
管理方法	☐ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他 [　]
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他 [　]
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他 [　]

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐一部実施済　☐実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[　]
実施方法	☐自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他 [　]
予備診断における課題（自由記述）	沖縄のグスクの場合、文化財石垣予備診断実施要領（案）をそのまま当てはめることが妥当なのか、地域に即した内容の確認・検討が必要だと感じている。

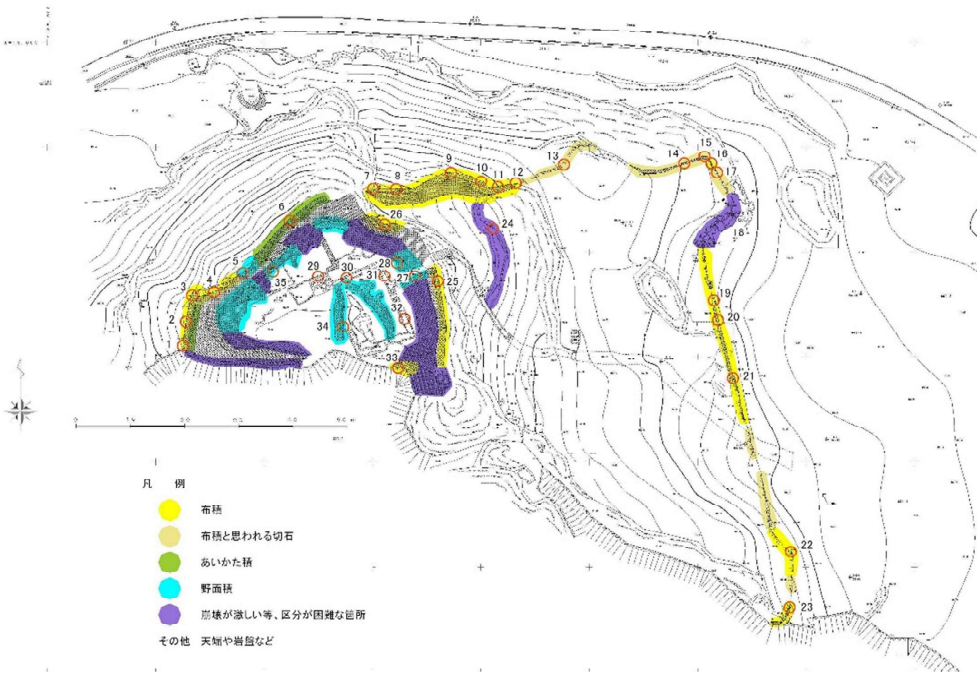
5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐不透水層の設置　☐遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他 [　]
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☐ 公園施設の既存側溝　☐構に影響を与えない新設排水　復☐した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容 [　] その他 [　特に対策を行っていない。　]

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐全面的に取得済　☑一部取得済（30%）　☐未取得（計画中）　☐予定なし その他 [　]
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐航空レーザー測量　☐スマホ・タブレット（LiDAR等） その他 [　]
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☐調査・研究　☑ 記録保存　☑経年変化の差分解析等 ☐VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他 [　]

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）



調査箇所ごとの石積形態

	隣接部位	積　方	勾配	石材の大きさ（個／㎡）	石材の加工状況 面	石材の加工状況 合端	備　考
1	石積	あいかた積 布積	1：0.78	6～8 2～3	4 4	5 4	石積上部(1～5mほどまで) 石積下部(1m ほどまで)
2	〃	あいかた積 布積	1：0.59	10～12 6～8	5 5	5 5	石積上部 石積下部(石積前はまで 4m 程度)
3	〃	布積	1：0.50	7	4	4	
4	〃	布積	1：0.22	10～12	5	5	
5	〃	野面積	計測無	25～50	1～2 (5)	1～2 (2～5)	隙間が多いが、面々に組まれる確認できる （）内は部分的な加工箇所を示す
6	〃	雑あいかた積	1：0.40	30	2	2	
7	〃	布積	1：0.25	15 25～30	4 4	4 4	石積下部 石積上部
8	〃	布積	1：0.18	10～12	4	4	
9	〃	布積	計測無	10	4	4	はらみがひどく、崩壊が進んでいる
10	〃	布積	1：0.25	5～6	4	4	
11	〃	布積	1：0.50	10	4	4	
12	〃	布積	1：0.50	10	4	4	
13	〃	布積と思われる	—	—	5～4	4	石垣城壁からなど石材が確認できる
14	〃	布積と思われる	1：0.22	8	4	4	積み直されている
15	〃	布積と思われる	—	1～2	5	5～4	角部の石積みをおけずおり、積石角は推定せず、周辺の石積も全体的に大きい
16	〃	布積	1：0.21	5～4	4	4	全体的に石材が大きい
17	〃	布積と思われる	1：0.10	1	4	4	〃
18	〃	区分無	計測無	計測無	—	—	崩壊が激しく区分無
19	〃	布積	1：0.38	6～5	4	4	石トンネル部分
20	〃	布積	1：0.24	10～12	5～4	5～4	
21		布積	1：0.50	2～3	4～5	4～5	石材は大きく、加工も丁寧である
22	〃	布積	1：0.55	1～2	4	4	
23	〃	布積	1：0.50	4～5	4	4	
24	〃	区分無	計測無	計測無	—	—	石積部は確認できず
25	〃	布積	計測無	計測無	5～4	4	急な崖なお整上にあるため越からだけの確認
26	〃	布積	1：0.25	14～16	5～4	5～4	石積の角度方向は比較的良い
27	〃	野面積	—	25	2	2	石積無部分が多いため測定せず
28	〃	野面積	—	25	2	2	〃
29	石階段	—	—	—	5	5～4	比較的良好保存
30	石垣道	—	—	12～14	5	5	石敷道幅平＝1,000～1,100
31	〃	—	—	12～14	2	2	
32	〃	—	—	12～14	5	5	石垣最新のみ
33	石積	布積(一部)	計測無	計測無	5	5	崩壊が激しく、積石角の測定不能
34	〃	野面積	—	25	1	1～2	石積が激しく、積石角は測定せず
35	〃	野面積	—	25	2	2	石積無部分が多いため測定せず

調査箇所 26



比較的保存が良いと思われる

[調査箇所および周囲の状況]
一の郭城壁の外側部分である。石材の大きさは中程度で、布積である。
[石積および石材の形態]
石積の傾斜角…1：0.25
石積の区分…布積
石材の大きさ…14～16 個／㎡
□500×400、□240×420
石材の加工状況…（面）　3～4
（合端）　3～4

調査箇所 6



石積全体。石積は高く、雑あいかた積である。

[調査箇所および周囲の状況]
当調査箇所付近の石積は、比較的高い位置まで石積が残存している。石材の大きさは中～小程度で、面および合端の加工状態は良くない。石積壁面には樹根がからみついている。
[石積および石材の形態]
石積の傾斜角…1：0.40
石積の区分…雑あいかた積
石材の大きさ…30 個／㎡
φ300×300、φ150×150
石材の加工状況…（面）　2
（合端）　2

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　植栽管理計画は策定していないが、石垣への影響等を考慮し都度、伐採等を実施］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☑ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［　　］
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	
植栽管理における課題（自由記述）	

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　危険木の観察　排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容：　　） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 1回程度　☐ 月1回程度　年1回の定期　災害後のみ　☑ 時
点検の主体	☑ 整備部署　調査部署　管理部署　委託（指定管理等）　ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ ない ある場合の具体的内容：
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　今後行う予定　☑ っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	
日常点検における課題（自由記述）	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　幾度か修復されていると思われるが、当該期の記録等が残っておらず、詳細は不明。　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡　糸数城跡	都道府県	沖縄県	市町村	南城市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和47年5月15日	指定面積	82,806㎡
その他の指定		その他の法規制	南城市都市計画マスタープラン（風致地区・特定用途制限地域）		
保存活用計画	☑ 有　☐ 無　令和2年3月作成	整備基本計画	☑ 有　☐ 無	令和2年3月作成	
調査担当部署	南城市教育委員会文化課	整備担当部署	南城市教育委員会文化課		
管理担当部署	南城市教育委員会文化課	指定管理者	なし		
委員会設置状況	糸数城跡整備委員会（平成10年度～）	その他計画	南城市歴史文化基本構想保存活用計画（平成23年）、南城型エコミュージアム実施計画（平成29年）		

城郭等の概要	糸数城跡は、東側に所在する玉城グスクの城主が、その西側の守りとして三男を派遣して築城したと伝えられている。東側を除き三方を峻険な崖や急斜面に囲まれた天然の要害に位置し、とりわけ南側の断崖は非常に険しい地形をなしている。一方、防備の薄い平坦な東側には高い城壁が築かれ、正門を本家である玉城グスクに向けて設けることで、両城の緊密な連携が図られていたと想定される。本グスクは総石垣造りのグスクで石垣の長辺は100mを超える。縄張における最大の特徴はその直線状の石垣にあり、防備上の弱点となる平坦な東側と緩やかな北側には高い石垣が、急峻な南側と西側にも低い石垣が巡らされている。さらに、南のアザナやその北側に隣接する南の虎口、北のアザナといった突出部が防備の要所に設置されている。

石垣の面積	約2000 ㎡	石垣の総延長	0.71 ㎞

石垣の特徴	糸数城跡の石垣は、基本的には野面積みが用いられているが、南のアザナや北のアザナにおいては外側が布積で、内側は石同士が接する面を半加工して綺麗に整えられている。さらに、正門から北のアザナにかけては、下部の布積の上に野面積みが重ねられた二層積みという特異な形態が見られ、新しい技法とされる布積から古い技法の野面積へと移行していく過程に本グスクならではの特徴がうかがえる。また、南の虎口跡は突出部全体に石を積み上げて造られた南のアザナとは異なり、石塁がコの字型に巡る形状から、かつての正門であったとみられる。これは、糸数グスクの拡張に伴い現在の正門が別の位置に新設されたことで旧正門が塞がれ、のちにアザナとして転用されたものと推測される。
近代以降の動向	昭和34 年12 月16 日、琉球政府文化財保護委員会による指定を受け、そして日本復帰に伴って、昭和47 年5 月15 日に国の史跡指定を受けた。昭和51 年度には玉城村が『国指定史跡保存管理計画書 糸数城跡』を策定し、土地公有化事業を実施した。昭和61 年度より保存修理事業を開始し、平成２年度には『糸数城跡及び周辺整備構想（基本構想）』を策定。平成８年１月22 日に、根石グスクや蔵屋敷遺跡等、糸数城跡と関連する遺跡の所在する地域が追加指定された。その後平成８～11 年度にかけて土地公有化のための国庫補助事業を受けて土地を取得し、平成11 年３月に『糸数城跡整備実施計画報告書』を策定している。発掘調査については、昭和61 年度から実施されている糸数城跡の保存修理事業として、城郭部分（第１期地区）の発掘調査、城壁石積の保存修理及び写真測量、資料整理が随時、実施された（平成24 年度まで）。また、蔵屋敷地区については、保存修理事業の第１期終了予定にあわせた事前確認調査として、平面測量（平成17 年度）、発掘調査（平成18～25 年度）及び資料整理事業（平成18～28 年度）が文化庁の国庫補助を受けて行われた。
維持管理の概要	維持管理は、市直営にて実施している。史跡内の草刈りを市シルバー人材センターに委託し、年に数回定期的に実施している。石垣面に自生する樹木等については、石垣への影響等を検討のうえ、市が別の委託業務にて実施する場合がある。 日常的な点検管理として、市担当者が目視にて定期的に現地確認を行っている。また、地震・台風等の自然災害の発生した場合は、市担当者が直接現地を確認し、被害の有無を確認している。

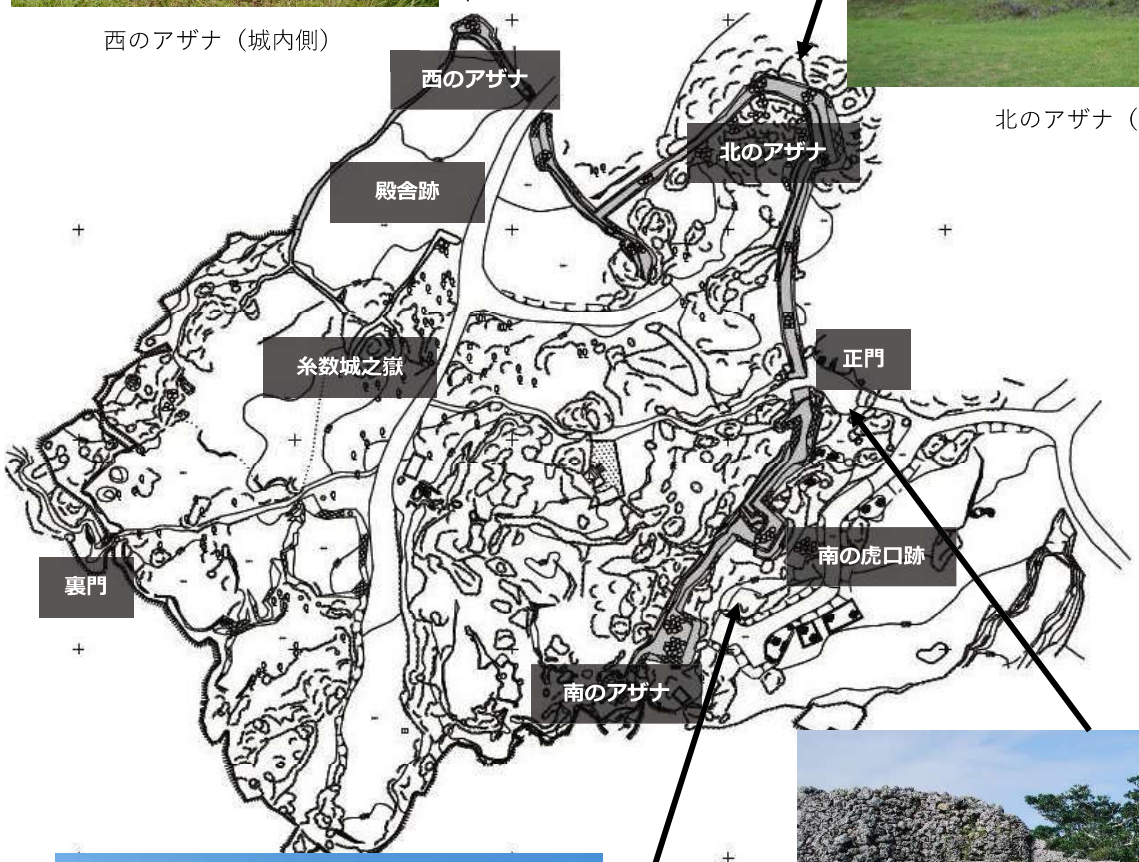
2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



西のアザナ（城内側）



北のアザナ（城外側）





正門（城外側）



南のアザナ（奥）・南の虎口跡（手前）（城外側）

参考文献	玉城村教育委員会　1991　『国指定史跡 糸数城跡－発掘調査報告書Ⅰ－』 玉城村教育委員会　2000　『糸数城跡整備実施計画 報告書』 南城市教育委員会　2020　『国指定史跡 糸数城跡保存活用計画書』 南城市教育委員会　2020　『国指定史跡 糸数城跡整備基本計画書』 南城市教育委員会　2024　『糸数城跡－整備事業報告書Ⅰ－』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☑一部作成済　（作成率：約85%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☑ 昨成済　☐ 一部作成済　（作成率：約　%）　☐未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[2022] 年　最終更新：［　］年
管理方法	☑ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐一部実施済　☐実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	☐自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐不透水層の設置　☐遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☐ 公園施設の既存側溝　☐構に影響を与えない新設排水　復☐した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　特に対策を行っていない。　］

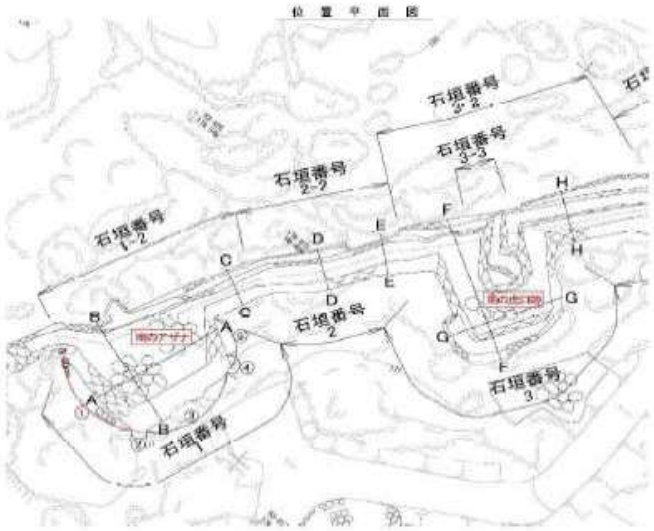
6.3Dデータの取得・活用状況

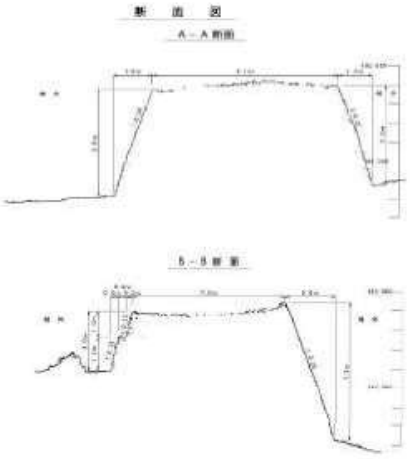
3Dデータの取得状況	☐全面的に取得済　☑一部取得済（85%）　☐未取得（計画中）　☐予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐航空レーザー測量　☐スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☑経年変化の差分解析等 ☐VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

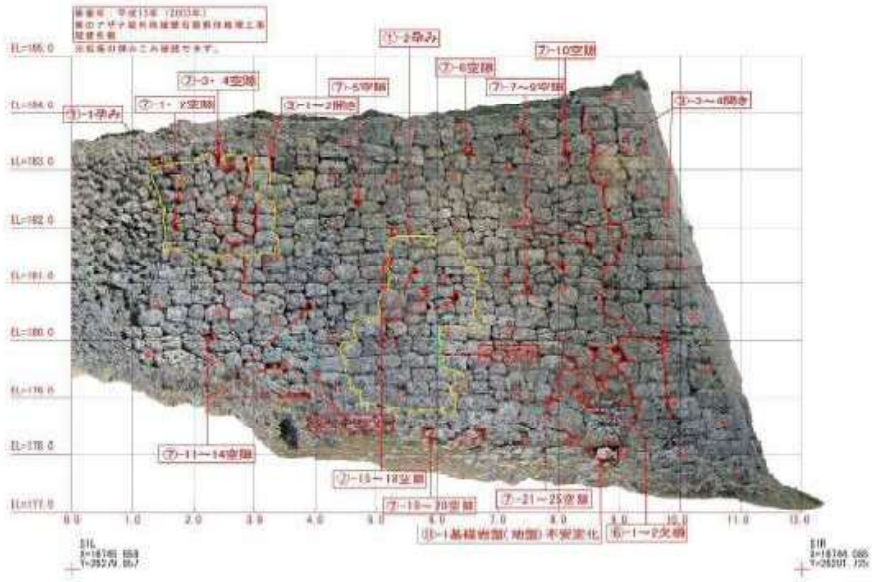
石垣諸元	石垣番号	1	位置番号	①	地区	南のアザナ	石垣部位	城外	方位	南	
	積み方	布積み	石材の加工	切り込み接ぎ	基礎部	岩盤上（琉球石灰岩）に築造	立地面	斜面			
整備記録	平成15年（2003年）面積≒25㎡：南のアザナ城外側城壁石積解体修理工事										
被災記録等											
備考											

位置図等





石垣番号	1	位置番号	①	地区	南のアザナ	石垣部位	城外	方位	南						
変状状態	①孕み	②ずれ	③目地の開き	④亀裂	⑤抜け落ち	⑥欠損	⑦空隙	⑧空洞	⑨裏込め材の流出	⑩基礎部の洗掘	⑪基礎岩盤(地盤)不安定化	⑫傾倒	⑬その他		
変状数（箇所）	2	3	4	-	-	2	25	-	-	-	1	-	-		
個々の危険性区分	a2	a2	a2	-	-	a3	a2	-	-	-	a3	-	-		
						崩壊の危険性区分		a2	利用影響危険性区分		b1	危険度			B2



8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☑ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☑ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	
植栽管理における課題（自由記述）	

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　危険木の観察　排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容：　　） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 1回程度　☐ 月1回程度　年1回の定期　災害後のみ　☑ 時
点検の主体	☑ 整備部署　調査部署　管理部署　委託（指定管理等）　ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ ない ある場合の具体的内容：
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	整備委員会で状況報告を行ったうえで、修理方法の検討を実施。
日常点検における課題（自由記述）	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［幾度か修復されていると思われるが、当該期の記録等が残っておらず、詳細は不明。　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡知念城跡、名勝アマミクヌムイ（知念森（知念グスク））	都道府県	沖縄県	市町村	南城市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和47年5月15日	指定面積	22,445.36㎡
その他の指定		その他の法規制	南城市都市計画マスタープラン（風致地区・特定用途制限地域）		
保存活用計画	☐ 有 ☑ 無	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	南城市教育委員会文化課	整備担当部署	南城市教育委員会文化課		
管理担当部署	南城市教育委員会文化課	指定管理者	なし		
委員会設置状況	知念城跡整備委員会（平成18年度～）	その他計画	知念城跡整備基本設計（実施計画）（平成16年）南城市歴史文化基本構想保存活用計画（平成23年）、南城型エコミュージアム実施計画（平成29年）		

城郭等の概要	知念城跡は、沖縄島南部東端の知念集落北西の琉球石灰岩丘陵地における頂部より一段下がった段丘部（標高約100m）南端に位置し、グスクの南東側から西側にかけては険岨な崖をなしている。野面積みの城壁がめぐり鬱蒼とした森が広がる東南部の「クーグスク（古城）」と、16世紀頃の増築で切石積みと野面積みの城壁や2ヵ所の石造拱門を持ち、のちに知念番所としても使用された西側の「ミーグスク（新城）」の二つの郭から構成されている。城郭の周辺には役人やノロ、住民の屋敷跡などの歴史的遺構も残されており、現在でも「東御廻り」の拝所として多くの参拝者が訪れる聖地となっている。

石垣の面積	約500 ㎡（新城）	石垣の総延長	0.135 ㎞（新城）

石垣の特徴	石垣は、古城（クーグスク）と新城（ミーグスク）で積み方が明確に異なる点が最大の特徴である。東南部の古城は自然石をそのまま積み上げる野面積みで囲まれており、対して西側の新城は切石積と相方積の城壁がめぐらされている。さらに、この新城の城壁には2ヵ所の特徴的なアーチ型の石造拱門が設置されている。
近代以降の動向	知念グスクの創建や過去の修復の詳細は不明だが、確認できる修復は昭和44年（1969）のもののみである。平成2年度の正門の緊急保存修理の調査から、1965年にこの部分が破壊を受け、1969年に村の予算と地元の石工により応急修復されたことが判明している。修復はモルタルによる補強が外部・内部で確認されている。 文化財としては、昭和34年に琉球政府文化財保護委員会より指定を受け、昭和37年に特別重要文化財へ重複指定された。本土復帰後の昭和47年には国指定史跡および県指定建造物となっている。斎場御嶽とともに東御廻りの聖地とされる同跡地は、平成4年度の基本構想・基本計画策定を皮切りに、平成5・6年度に保存管理計画が策定された。その後、平成11・12年度の土地公有化を経て、平成15年度に整備計画基本設計が作成され、平成14年度から整備事業を開始した。平成18年度の町村合併後も南城市により継続して実施している。
維持管理の概要	維持管理は、市直営にて実施している。史跡内の草刈りを市シルバー人材センターに委託し、年に数回定期的に実施している。石垣面に自生する樹木等については、石垣への影響等を検討のうえ、市が別の委託業務にて実施する場合がある。 日常的な点検管理として、市担当者が目視にて定期的に現地確認を行っている。また、地震・台風等の自然災害の発生した場合は、市担当者が直接現地を確認し、被害の有無を確認している。

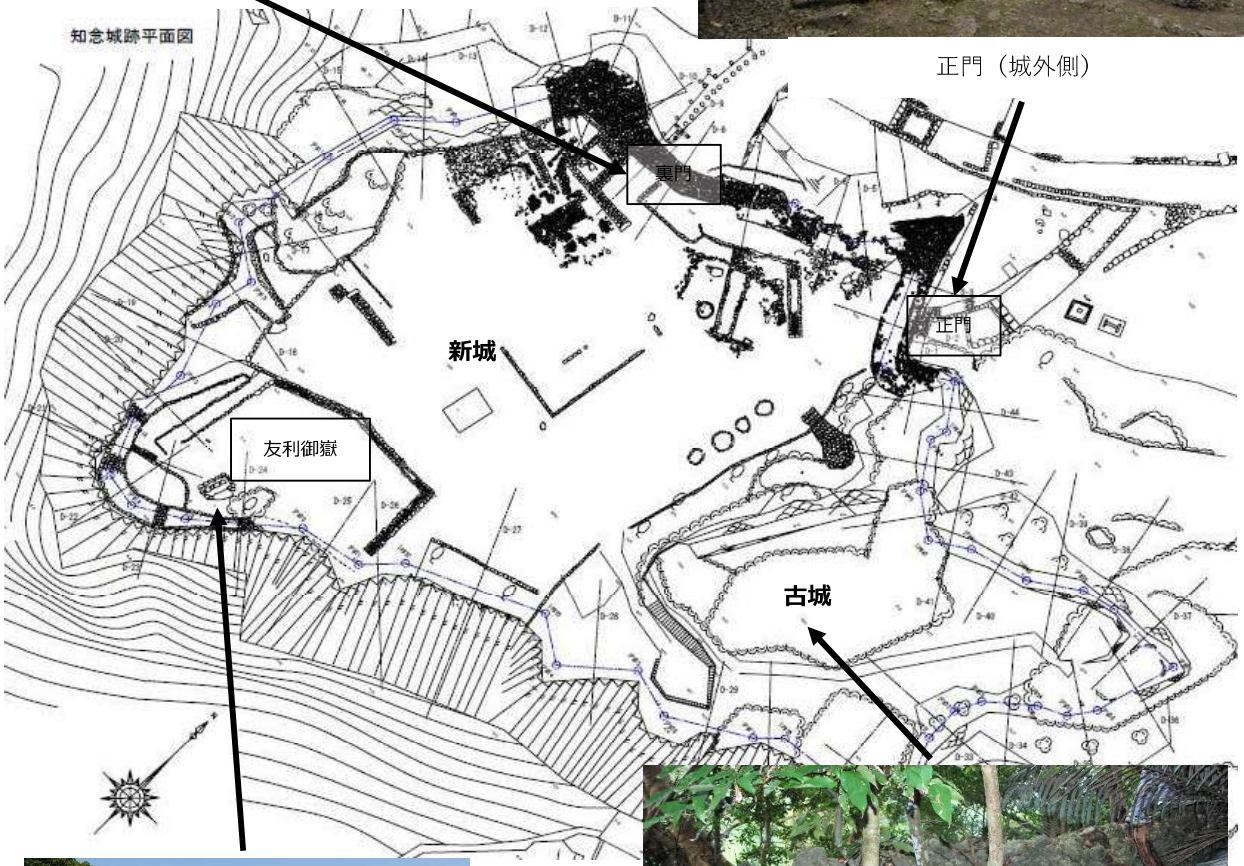
2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



裏門・焚字炉（城内側）



正門（城外側）





友利御嶽にある拝所



古城の石積

参考文献	知念村　1993　『知念城跡・斎場御嶽及び周辺整備基本構想・基本計画』 知念村教育委員会　1995　『史跡知念城跡保存管理計画書』 南城市教育委員会　2008　『知念城跡Ⅰ　発掘調査概報（外郭編）』 南城市教育委員会　2010　『知念城跡Ⅱ　発掘調査・整備工事報告書（外郭編）』 南城市教育委員会　2026　『知念城跡３　平成18年度　発掘調査・整備事業報告書』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☑ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[2005] 年　最終更新：［　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐一部実施済　☐実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	☐自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

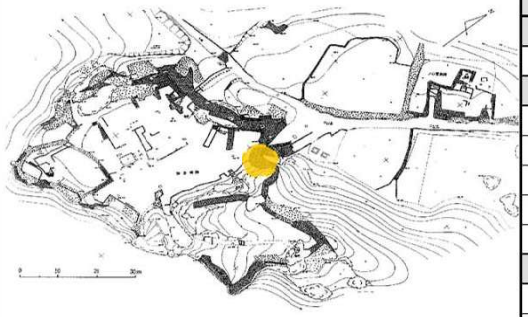
5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐不透水層の設置　☐遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☐ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［特に対策をしていないが、調査にて全体的な雨水排水は正門方向へ排出していると想定。］

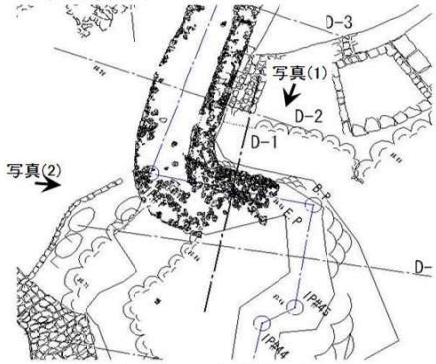
6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐全面的に取得済　☐一部取得済（　%）　☐未取得（計画中）　☑予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☐地上型3Dレーザースキャン　☐UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐航空レーザー測量　☐スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☐調査・研究　☐ 記録保存　☐経年変化の差分解析等 ☐VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

調査地点	D-1周辺（正門の南東側の石積）	シート番号	No. 1
調査位置図		調査年月日	H18（'06）年3月7日
		調査員氏名	
		発掘調査	（未）　済
		主な遺構：	石積
		保存状況	
		日地のゆるみ、植物の着生	
		危険度	
		小	

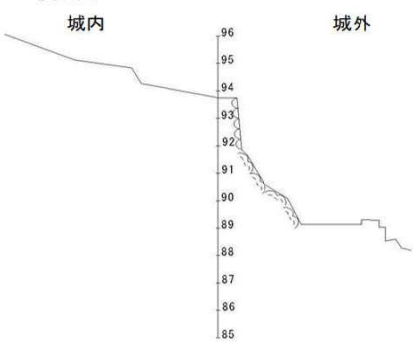


拡大平面図



※太鎖線：横断、青鎖線：中心線

横断図





写真(1)　城外側石積



写真(1)　城内側石積

調査地点	D-1周辺（正門の南東側の石積）	シート番号	No. 2
調査年月日	H18（'06）年3月7日	調査員氏名	
特記事項			

遺構種別：　石積

・自然岩を利用し、その上に石積を設置している。

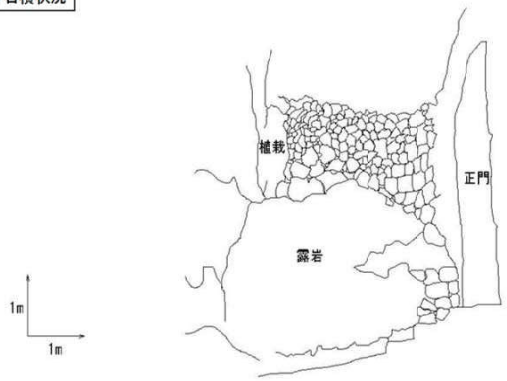
材質：　琉球石灰岩　　仕上げ（積み方等）：　相方積

大きさ（個/m2）：25～30

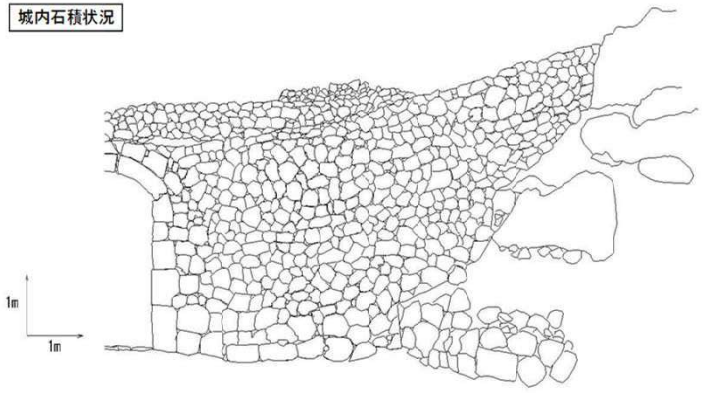
加工技術（面）：　2　　加工技術（合端）：　2

遺構の保管場所：　現地

城外石積状況



城内石積状況



※加工レベルの凡例　1：加工なし　2：やや加工がある　3：加工が中位　4：加工が上位　5：緻密な加工がある

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☑ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［植栽管理計画は策定していないが、石垣への影響等を考慮し都度、伐採等を実施］
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	
植栽管理における課題（自由記述）	

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　危険木の観察　排水機能の状況 その他［　　］
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容：　　） その他［　　］
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 1回程度　☐ 月1回程度　年1回の定期　災害後のみ　☑ 随時
点検の主体	☑ 整備部署　調査部署　管理部署　委託（指定管理等）　ボランティア・市民団体 その他［　　］

石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ ない
ある場合の具体的内容	
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	整備委員会で状況報告を行ったうえで、修理方法の検討を実施。
日常点検における課題（自由記述）	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［幾度か修復されていると思われるが、当該期の記録等が残っておらず、詳細は不明。］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	☑ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］